

令和3年度

授 業 概 要

学校法人 穴吹学園

専門学校 穴吹リハビリテーションカレッジ

作業療法学科

校訓

日
々
是
是
前
進

穴吹夏次

専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ

令和3年度

授 業 概 要

2021年4月 発行

発 行 者 専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ
〒761-0156 香川県高松市上天神町722-1
TEL:087-815-3300 FAX:087-815-2111
URL:<http://www.anabuki-college.net/ark/>

目 次

令和3年度 カリキュラム

作業療法学科カリキュラム	1
--------------------	---

令和3年度 授業概要

基礎分野

科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	5
----------------------------	---

専門基礎分野

人体の構造と機能及び心身の発達	14
-----------------------	----

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	25
---------------------------	----

保健医療福祉とリハビリテーションの理念	37
---------------------------	----

専門分野

基礎作業療法学	40
---------------	----

作業療法管理学	46
---------------	----

作業療法評価学	48
---------------	----

作業療法治療学	53
---------------	----

地域作業療法学	73
---------------	----

臨床実習	78
------------	----

令和3年度

カリキュラム

作業療法学科カリキュラム(平成31年度入学生用)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野 17単位	科学的思考の基盤 人間と生活 17単位	心理学	2	15	30						
		情報科学	1	30	30						
		生化学	1	30	30						
		統計学	2	15		30					
		教育学	2	15	30						
		社会福祉学	1	30	30						
		人間工学	1	30		30					
		物理学	2	15	30						
		医療接遇	1	15	15						
		人間育成学Ⅰ	1	30	30						
		人間育成学Ⅱ	1	30				30			
英語	2	15	30								
基礎分野合計			17		255	60	30	0	0	0	
専門基礎分野 32単位	人体の構造と機能 及び心身の発達 16単位	解剖学Ⅰ	2	30	60						
		解剖学Ⅱ	2	30	60						
		解剖学Ⅲ	2	30		60					
		解剖学実習	1	30	15	15					
		体表面解剖学Ⅰ	1	30	30						
		体表面解剖学Ⅱ	1	30		30					
		生리학Ⅰ	1	30	30						
		生리학Ⅱ	1	30		30					
		運動生理学Ⅰ	1	30		30					
		運動生理学Ⅱ	1	30			30				
		運動学Ⅰ	1	30	30						
		運動学Ⅱ	1	30		30					
		人間発達学	1	30	30						
		小計	16		255	195	30	0	0	0	0
32単位	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 13単位	病理学	1	30		30					
		臨床心理学	1	30			30				
		一般臨床医学	1	30		30					
		内科学Ⅰ	1	30		30					
		内科学Ⅱ	1	30			30				
		整形外科Ⅰ	1	30		30					
		整形外科Ⅱ	1	30			30				
		神経内科学	1	30			30				
		脳神経外科学	1	30			30				
		精神医学Ⅰ	1	30		30					
		精神医学Ⅱ	1	30			30				
		小児科学	1	30		30					
		老年学	1	30			30				
小計	13		0	180	210	0	0	0	0		
3単位	保健医療福祉とリハビリテーションの 理念 3単位	リハビリテーション医学概論	2	15	30						
		保健医療福祉論	1	30		30					
		小計	3		30	30	0	0	0	0	0
専門基礎分野合計			32		285	405	240	0	0	0	

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

作業療法学科カリキュラム(平成31年度入学生用)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門分野 65単位	基礎作業療法学 8単位	作業療法概論Ⅰ	1	30	30						
		作業療法概論Ⅱ	1	30					30		
		基礎作業学Ⅰ	1	30		30					
		基礎作業学Ⅱ	1	30				30			
		基礎作業学実習Ⅰ	1	30			30				
		基礎作業学実習Ⅱ	1	30				30			
		基礎作業学実習Ⅲ	1	30				30			
		基礎作業学実習Ⅳ	1	30					30		
	小計	8			30	30	60	90	30	0	
	作業療法評価学 7単位	作業療法評価学Ⅰ	1	30		30					
		作業療法評価学Ⅱ	1	30			30				
		作業療法評価学実習Ⅰ	1	30		30					
		作業療法評価学実習Ⅱ	1	30			30				
		作業療法評価学実習Ⅲ	2	30				60			
		作業療法評価学応用学	1				30				
	小計	7			0	60	90	60	0	0	
	作業療法治療学 22単位	身体障害作業療法学Ⅰ	1	30			30				
		身体障害作業療法学Ⅱ	1	30				30			
		身体障害作業療法学Ⅲ	1	30			30				
		身体障害作業療法学Ⅳ	1	30				30			
		発達障害作業療法学Ⅰ	1	30			30				
		発達障害作業療法学Ⅱ	2	22.5				45			
		精神障害作業療法学Ⅰ	1	30			30				
		精神障害作業療法学Ⅱ	1	30				30			
		精神障害作業療法学Ⅲ	2	22.5				45			
		高齢期作業療法学	1	30				30			
		日常生活活動学Ⅰ	1	30			30				
		日常生活活動学Ⅱ	1	30				30			
		義肢学	1	30			30				
		装具学実習	2	30				60			
		動作分析セミナーⅠ	1	30				30			
		動作分析セミナーⅡ	1	30					30		
	作業療法治療応用学	1	30				30				
	ペーパーペーシェントセミナー	2	30					60			
	小計	22			0	0	180	360	90	0	
	地域作業療法学 5単位	生活環境論	1	30				30			
		地域作業療法学	1	30				30			
		福祉用具学Ⅰ	1	30				30			
		福祉用具学Ⅱ	1	30				30			
		職業関連活動学	1	15						15	
	小計	5			0	0	0	120	15	0	
	臨床実習 23単位	体験見学実習	1	45		45					
		評価実習Ⅰ	2	45			90				
		評価実習Ⅱ	2	45				90			
		臨床実習Ⅰ	4	45					180		
		臨床実習Ⅱ	6	45					270		
		臨床実習Ⅲ	8	45						360	
	小計	23			0	45	90	90	450	360	
	専門分野合計			65		30	135	420	720	585	360

総合計	114		570	600	690	720	585	360
-----	-----	--	-----	-----	-----	-----	-----	-----

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位。

作業療法学科カリキュラム(令和2年度、3年度入学生用)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野 14単位	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 14単位	心 理 学	2	15	30					
		情 報 科 学	1	30	30					
		論 理 学	2	15	30					
		社 会 学	2	15	30					
		人 間 工 学	2	15	30					
		コミュニケーション論演習Ⅰ	1	30	30					
		コミュニケーション論演習Ⅱ	1	30		30				
		健 康 科 学	1	30	30					
		英 語	2	15		30				
基礎分野合計			14		210	30	30	0	0	0
専門基礎分野 12単位	人体の構造と機能 及び心身の発達 12単位	上肢解剖運動学Ⅰ	1	30	30					
		上肢解剖運動学Ⅱ	1	30	30					
		下肢体幹解剖運動学	1	30	30					
		解剖運動学演習	1	30		30				
		内 臓 学	1	30	30					
		解剖学実習	1	30		30				
		運動生理学Ⅰ	1	30	30					
		運動生理学Ⅱ	1	30	30					
		運動生理学Ⅲ	1	30		30				
		運動生理学演習	1	30		30				
		人間発達学	2	15	30					
		小 計	12		210	120	0	0	0	0
30単位	疾病と障害の成り 立ち及び回復過程 の促進 14単位	病 理 学	1	30			30			
		臨床心理学	1	30		30				
		一般臨床医学Ⅰ	2	15		30				
		一般臨床医学Ⅱ	2	15		30				
		内 科 学	1	30		30				
		整形外科学Ⅰ	1	30		30				
		整形外科学Ⅱ	1	30			30			
		神経病学Ⅰ	1	30		30				
		神経病学Ⅱ	1	30			30			
		精神医学	1	30		30				
		健康管理学	1	30		30				
老 年 学	1	30			30					
小 計	14		0	240	120	0	0	0		
4単位	保健医療福祉とリ ハビリテーションの 理念	リハビリテーション医学概論	1	30	30					
		保健医療福祉連携論	1	30			30			
		地域・国際コミュニティ論	2	15			30			
		小 計	4		30	0	60	0	0	0
専門基礎分野合計			30		240	360	180	0	0	0

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

作業療法学科カリキュラム(令和2年度、3年度入学生用)

分野	教育内容	単位数	単位時間	1年		2年		3年	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野	基礎作業療法学 5単位	作業療法概論Ⅰ	1	30	30				
		作業療法理論	1	30			30		
		基礎作業学	1	30		30			
		基礎作業学実習Ⅰ	1	30			30		
		基礎作業学実習Ⅱ	1	30				30	
		小計	5		30	30	30	60	0
	作業療法管理学 2単位	作業療法管理学Ⅰ	1	30			30		
		作業療法管理学Ⅱ	1	30				30	
		小計	2		0	0	30	30	0
	作業療法評価学 5単位	作業療法評価学概論	1	30		30			
		運動器作業療法評価学	1	30			30		
		神経筋作業療法評価学	1	30			30		
		作業療法評価学演習Ⅰ	1	30				30	
		作業療法評価学演習Ⅱ	1	30				30	
		小計	5		0	30	60	60	0
	作業療法治療学 19単位	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ	1	30			30		
		中枢神経疾患作業療法学Ⅱ	1	30				30	
		運動器疾患作業療法学Ⅰ	1	30			30		
		運動器疾患作業療法学Ⅱ	1	30				30	
		内部疾患作業療法学	1	30			30		
		発達障害作業療法学Ⅰ	1	30			30		
		発達障害作業療法学Ⅱ	1	30				30	
		精神障害作業療法学概論	1	30		30			
		精神障害作業療法学Ⅰ	1	30			30		
		精神障害作業療法学Ⅱ	1	30				30	
		高齢期作業療法学	1	30				30	
		生活行為学Ⅰ	1	30		30			
		生活行為学Ⅱ	1	30			30		
		生活行為向上マネジメント学	1	30				30	
義肢学		1	30			30			
装具学実習		2	30				60		
作業療法総合論		2	30						60
小計	19		0	60	210	240	0	60	
地域作業療法学 4単位	住環境整備論	1	30				30		
	地域作業療法学	1	30				30		
	福祉用具学	1	30				30		
	就労支援技術論	1	30				30		
	小計	4		0	0	0	120	0	0
臨床実習 29単位	見学実習Ⅰ	1	45	45					
	見学実習Ⅱ	1	45		45				
	評価実習	3	45				135		
	総合臨床実習Ⅰ	12	45					540	
	総合臨床実習Ⅱ	12	45						540
	小計	29		45	45	0	135	540	540
専門分野合計		64		75	165	330	645	540	600
総合計		108	3405	525	555	540	645	540	600

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

令和3年度

授 業 概 要

科学的思考の基盤

人間と生活

社会の理解

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学		作業療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
心理学の各領域について概説し、心理学の基礎的知識を習得する。第1回～第13回は、心理学の基礎について概説し、第14回・第15回は、国家試験過去問題を解いて全体のまとめとするとともに国家試験合格への意識付けを行う。				
授業終了時の到達目標				
心理現象のメカニズムについて理解し、身近なものや人の行動について照らし合わせて理解できる。また、心に関する様々な問題に対して、多角的な視点からの思考を持つ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
テキストを読んで、授業で説明した内容の振り返りを行う。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス 心理学とは	心理学を学ぶこと 心理学の各領域の紹介		
2	知覚	知覚すること、図と地、錯視、知覚の主観性 物理的環境と心理的環境		
3	学習	学習の重要性、新たな行動様式の学習メカニズム やる気と無気力		
4	動機付け	生理的動機付け、社会的動機づけ 社会的動機：達成動機づけ、内発的動機づけなど		
5	記憶	記憶のメカニズム、記憶の変容 想起時につくられる記憶、自伝的記憶、偽の記憶		
6	発達	発達とは、発達段階と発達課題 発達移行期、文化と発達期待		
7	青年	青年期とは、友情と恋愛 アイデンティティの探求、青年期の時間的展望		
8	性格 1	性格を捉える、性格の形成と変容に関する理論 性格の形成要因		
9	性格 2	性格検査(質問紙法：エゴグラム 投影法：バウムテストまたはロールシャッハ・テスト)		
10	自己	自己の二重性、客体としての自己概念 主体としての自己に迫る、物語的文脈としての自己		
11	家族	家族というシステム、家族の発達段階 家族関係の病理		
12	こころの病気と健康	こころの健康性、精神障害 思春期・青年期の心の病理		
13	社会	対人認知、コミュニケーションと対人行動		
14	まとめ 1	国家試験過去問題の解説(心理テスト、防衛機制など)		
15	まとめ 2	国家試験過去問題の解説(エリクソンの発達課題など)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
はじめてふれる心理学第2版 (サイエンス社)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報科学		作業療法学科/1年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	井内 健二
授業の概要				
「情報」の意味および価値を理解するとともに、一般情報のデジタル化、さらにデジタル化された情報をIT (Information Technology) を使って有効な形態に加工し活用する技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
業務上のレポート作成、データ集計資料作成、Web上での情報検索、プレゼンテーション資料作成など情報活用技術全般の基礎を習得する。				
時間外に必要な学修				
前回配布した資料を読み直すこと。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	授業内容の紹介、パソコン起動、フォルダ作成、文章入力 ファイル保存、印刷、PCのシャットダウン		
2	フォルダ作成と圧縮ファイルの解凍 タイピング練習ソフトでタッチタイ ピング練習	フォルダ作成とミカタイプの圧縮ファイルの解凍法。ミカ タイプの使い方、ミカタイプでタイピング練習		
3	社内文書の作成	情報科時代における必要な安全対策。パスワードについ て		
4	社内文書の作成2	課題「社内研修のお知らせ」(社内文書)作成。表の作成と 印刷		
5	社内文書の作成3	課題「セミナー開催のご案内」(社外文書)作成		
6	インフォーマルな文書の作成	「ビアパーティのご案内」作成。画像の作成と加工		
7	Excelデータ入力「スケジュール 表」作成	Excelの画面の説明。スケジュール表を計算式を利用して作 成		
8	「個別売上表」(Excel)作成	「個別売上表」(Excel)作成		
9	Excelでグラフ作成とワードの差し 込み印刷	Excelでグラフ作成 ワードの差し込み印刷		
10	プレゼンテーション	プレゼンテーションの仕方 色の話、簡単なスライド作成		
11	Power Pointについて	「プレゼンテーションテクニックの仕方」		
12	ワードでレポート作成の学習	ケーススタディの作成練習 サンプルファイルのダウンロード		
13	Power Pointを使って プレゼンテーションの作成	「プレゼンテーションテクニック」の作成		
14	ワードファイルからパワーポイント ファイルへの連携法の学習	ワードファイルからパワーポイントファイルへの連携法の 学習		
15	ワードのレポート作成に便利な機能 の学習	クイックパーツの登録、snipping Toolの使い方 スクリーンショットの使い方		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
レジメ配布		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
論理学		作業療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
授業や課題レポート作成に必要な文章読解力、文章作成能力を養う				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業内の習熟や課題レポートに必要な文章力を身につける ・文章検3級レベルの能力を身につける 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 病院や施設、学校で培った学生に対する文章力指導経験を授業に活かす		
時間外に必要な学修				
学んだことを活かして、教科書の読解やレポート作成に臨むこと				
回	テーマ	内 容		
1	読解力 1	文章読解の基礎		
2	読解力 2	文章読解の基礎		
3	読解力 3	教科書の読みこみ方、索引の活用方法		
4	読解力 4	国家試験問題の読みこみ方		
5	読解力 5	症例報告を読む		
6	文章作成 1	文章作成の基礎、体裁の整え方		
7	文章作成 2	文章作成の基礎、手紙を書く、レポート作成		
8	文章作成 3	相手に伝わる文章を書く		
9	文章作成 4	相手に伝わる文章を書く		
10	文章作成 5	考察を書く		
11	文章作成 6	考察を書く		
12	応用 1	文章要約		
13	応用 2	文章要約		
14	応用 3	観察と記録		
15	応用 4	観察と記録		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布 参考図書) 文章検公式テキスト(日本漢字 能力検定協会) 他		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会学		作業療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	辰巳 裕子
授業の概要				
<p>人が集まると社会が生まれ、人は社会の中で生活を営んでいます。 社会の成り立ちに目を向け、特に作業療法士が直面する高齢社会や少子社会など様々な社会問題に目を向けて、その構造や原因を考えて、改善の糸口を見つけたり自身と社会との関りについて考える機会とする。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・今までとは違った「社会の見方」を身につける。 ・他者に「現在の社会問題」について説明できる。 ・自分自身の未来を切り開いていくことに役立つような知識と方法を見つける。 				
時間外に必要な学修				
テキストを読んで、授業で説明した内容の振り返りを行う。				
回	テーマ	内容		
1	社会学で何を学ぶのか	社会学とは、社会学を学ぶ目的と期待できる効果		
2	社会の謎と正体の探求	社会の謎と正体を探求		
3	集団	集団の理解		
4	家族	家族の作り方		
5	性愛と親密な関係	性愛と親密な関係		
6	都市と地域社会	都市と地域社会		
7	都市空間	変容する都市空間		
8	働き方と職場の人間関係 1	人が働く/人を働かせる方法、日本人の働き方		
9	働き方と職場の人間関係 2	働き方改革、集団とネットワーク		
10	宗教と社会	宗教と社会		
11	政治	政治		
12	グローバル化する世界と日本	グローバル化する世界と日本		
13	社会の発展法則の解明	社会の発展法則の解明		
14	社会の秩序	社会の秩序		
15	現代社会学への道	現代社会学への道		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる		提出物 定期試験	20% 80%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間工学		作業療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	廣永 大祐
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢・動作のみかた、考え方を学ぶ ・立位・座位・立ち上がり動作・寝返り動作の観察の視点・記入の方法を学ぶ ・動作を理解するうえの基礎的力学原則を学ぶ ・健常者の動き・バリエーションを学ぶ ・人-作業-環境の相互作用を学ぶ 				
授業終了時の到達目標				
<p>上記の授業概要について理解を深めること 特に ・健常者の動き・他者との違い・環境によって動きが変化することを理解し、 ・動きを観察・説明・記載ができることを求める。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の勤務経験。 人の動きや、人-作業-環境の相互作用についての経験を用いて授業を展開していく。		
時間外に必要な学修				
テキストを読んで授業の振り返りを行うことと四則演算の復習を行う				
回	テーマ	内容		
1	人間工学とは	基本的な考え方・みかた 人-環境-作業の関係		
2	手とモノの関係	物品操作に必要な手の構え・把握パターンと身体の関係		
3	福祉用具	自助具とは、福祉用具とは、支援の流れ		
4	家屋内の環境	住環境整備		
5	家屋外の環境	外出における環境と問題		
6	姿勢と環境	姿勢とは、姿勢の分類、みかた		
7	座位と環境	座位の特徴、差尺と環境		
8	起立・着座と環境	起立・着座動作		
9	車いすと環境	車いすの名称と種類、車いすの操作方法		
10	ベッドと環境	ベッドの操作、ベッド上の動作・移乗、マットレス		
11	基本動作のみかた 1	寝返り動作、起き上がり動作		
12	基本動作のみかた 2	寝返り動作、起き上がり動作		
13	基本動作の介助法	介助の考え方		
14	移動と環境	移動補助具、杖の調整と使用方法		
15	安全と人間工学	ハインリッヒの法則、事故を防ぐには		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
参考文献：・イラストで学ぶ看護人間工学 (東京電機大学出版) ほか		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション論演習 I		作業療法学科/1年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
臨床で働くまでに必ず身に付けるべきコミュニケーションスキルや社会人としてのマナーなどを修得する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な臨床技能としてのコミュニケーション力を身に付けた医療人になる ・問題解決に向けた行動ができる医療人になる 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士の経験を活かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
社会人としてのマナーやモラルを常に心がけ日常生活を送る				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	コミュニケーションとは		
2	ケア・コミュニケーションについて	医療におけるコミュニケーション		
3	自己分析	自己概念、自己肯定感		
4	みる	観察から読みとれる非言語情報、相手に与える印象		
5	きく	傾聴、聴き手のコツ		
6	伝える	アサーティブネス、伝わるコツ		
7	被援助者との関係を築く	好感・信頼感を高めるコミュニケーション		
8	被援助者との関係を築く	敬意を伝えるコミュニケーション		
9	被援助者との関係を築く	丁寧語・尊敬語・謙譲語		
10	2年生との合同授業	2年生との交流		
11	課題について調べる	伝える準備		
12	課題発表	伝える		
13	課題発表	伝える		
14	課題発表	伝える		
15	まとめ	社会人・医療人として必要なこととは何か		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・PTOTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版(医学書院) ・ケア・コミュニケーション(ウイネット) 		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション論演習Ⅱ		作業療法学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
チーム医療における患者・家族や医療者間のコミュニケーションは、作業療法の治療効果や生活支援において欠かせないものである。また、臨床実習においても、社会人の基礎として指導者や患者とのコミュニケーションが必要である。授業ではコミュニケーションを実践的な技術として身に付けることができるよう、演習を通して経験していく。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・各テーマにおけるコミュニケーションで、傾聴、共感し、自分の言葉で表現することができる。 ・言葉づかいや挨拶をしっかりと行い、アクティブに取り組むことができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの作業療法経験を活かし、学生の指導を行う。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・日常の生活場面から積極的にコミュニケーションをとり、自分の気持ちを表現しましょう。 ・今後の実習も意識して、挨拶を進んで行いましょう。 				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション ワークショップ	コミュニケーションについて アイスブレイク		
2	ワークショップ 1	「伝える力」をみがく		
3	ワークショップ 2	「質疑応答」にチャレンジ		
4	ワークショップ 3	「会話」の実践		
5	ワークショップ 4	「創造力」を伸ばそう		
6	ワークショップ 5	自分を振り返り、自己紹介 当事者とのコミュニケーション計画		
7	ワークショップ 6 当事者とのコミュニケーション	コミュニケーションの実践を通して生活背景を知る 自己紹介、会話、質疑応答		
8	1年生との合同授業	1年生との交流		
9	哲学対話 1	問いを語り合い、考える力を身につけよう		
10	哲学対話 2	自分と世界の見方を変え、表現しよう		
11	認知作業トレーニング 1	認知作業トレーニングの体験、指導練習を通じたコミュニケーション		
12	認知作業トレーニング 2	認知作業トレーニングの指導		
13	障害者スポーツを通じた交流 1	障害者スポーツについて 障害者スポーツの実践		
14	障害者スポーツを通じた交流 2	障害者スポーツの実践		
15	チームアプローチの実践	チームアプローチで活用される評価ツールを通して、コミュニケーション。模擬事例を評価しよう。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・配布資料		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
健康科学		作業療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
健康の維持・増進のために知っておくべき知識をさまざまな視点で学ぶ。健康体操の指導ができるようにする。				
授業終了時の到達目標				
健康とは何か、健康を阻害するものについて説明することができる。 健康体操を他者に指導することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 病院や高齢者施設での経験を活かして学生に分かりやすく指導する。		
時間外に必要な学修				
授業中に学んだ専門用語について、自身で関係書籍を活用して理解を深める。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要の説明 健康とは	授業概要の説明 健康とは		
2	身体構造と身体機能 健康診断	循環器系、呼吸器系、消化器系ほか 健康診断の意義と各検査・測定項目		
3	心の健康	精神的健康とは、心の不健康(うつ病、摂食障害、統合失調症など)		
4	遺伝と健康 適応と健康	遺伝の仕組み、遺伝性疾患、肥満・高血圧と遺伝との関係 自律神経系の作用、寒冷や暑熱および高地での適応		
5	環境と健康	温熱や騒音、振動などの環境と健康 COVID-19などの感染症と健康		
6	栄養と健康	五大栄養素の機能 栄養・健康に関する社会的諸問題		
7	運動と健康	運動の効果、トレーニング法と運動処方の実際 運動による障害		
8	生活習慣と健康	生活習慣病、食生活と健康、身体活動と健康、喫煙と健康 アルコールと健康、睡眠と健康		
9	社会と健康 1	健康に生きる権利、公衆衛生対策と健康 医療制度		
10	社会と健康 2	集団と健康、学校と健康、職場と健康		
11	社会と健康 3	経済と健康、法律と健康		
12	科学技術と健康 1	化学物質と健康 情報技術(IT)と健康		
13	科学技術と健康 2	交通機関と健康、自動車事故、自動車運転と健康障害		
14	科学技術と健康 3	住宅と健康		
15	健康体操の紹介と実践 まとめ	健康体操の紹介と実践 まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
英語		作業療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	Michael Newlin
授業の概要				
医学英語・リハビリテーション基礎英語を勉強し、練習する				
授業終了時の到達目標				
医学英語・リハビリテーション基礎英語が理解、使用できる				
時間外に必要な学修				
事前にテキストに目を通して予習をしておくこと				
回	テーマ	内 容		
1	Introductions, English Rhythm & Basic Accent Patterns	A. 基本発音練習(L, R) B. リハビリテーション英語: 領域・専門家		
2	Rehabilitation Sites	A. 基本発音練習(L, R) B. リハビリテーションの現場		
3	Fundamentals of the Human Body	A. 基本発音練習(F, V, B, P) B. 人体の基礎知識		
4	Body Structure: Skeletal System	A. 基本発音練習(S, SH, TH) B. 人体の構造: 骨格系		
5	Body Structure: Vertebral Column, Bones & Joints	A. 基本発音練習(A, E, O) B. 人体の構造: 脊柱・骨・関節		
6	Body Structure: Muscular System	A. 基本発音練習(EA/EE, I, O, U) B. 人体の構造: 筋肉系		
7	Body Structure: Nervous System	A. 基本発音練習(AR, ER, IR, OR, UR) B. 人体の構造: 神経系		
8	Body Structure: Nervous Subsystems	A. 基本発音練習(A, AN, THE) B. 人体の構造: 神経系, サブ系と様々な働き		
9	Bone Fractures: Classification & Treatment	骨折・分類と治療・大腿骨頸部骨折の運動療法		
10	Chronic Back Pain	慢性腰痛・腰痛の運動療法		
11	Arthritis	関節炎・変形性膝関節症の運動療法・関節リウマチの運動療法		
12	Sports Injury	スポーツ傷害・スポーツ外傷・傷害療法		
13	Parkinson's Disease	パーキンソン病・脳卒中・片麻痺の患者の日常動作		
14	Dysphagia & Translation Exercise 1	嚥下障害・英文の和訳実習①		
15	Chronic Obstructive Pulmonary Disease & Translation Exercise 2	慢性閉塞性肺疾患・英文の和訳実習②		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
リハビリテーションの基礎英語(MEDICAL VIEW) 配布資料		期末試験	100%	

人体の構造と機能及び 心身の発達

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
上肢解剖運動学 I		作業療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
<p>人体の正常な構造を理解するために解剖学的な知識を学んでいく。人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深めていく。特に骨や筋、神経の総論と運動学に必要な知識を学んでいく。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>到達目標としては正常な人体の構造と概論について学習し、その働きを学習する。また作業療法士として必要な上肢の骨や筋肉の名称を理解することで、運動学的に人体の機能を理解する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<p>作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、解剖学と運動学を臨床的観点から結びつける。</p>		
時間外に必要な学修				
<p>予習として次回の範囲のテキストを読んでおく。 小テストを行うため前回の復習をしておく。</p>				
回	テーマ	内容		
1	解剖学、運動学とは 人体の概要	解剖学、運動学の定義などを学習して、どのような内容を学ぶか理解する。		
2	細胞と発生	細胞の構造と機能について学習し、人体の発生について理解を深める。		
3	骨格系の総論	骨の形態や構造、機能について学習する。		
4	骨の形状や名称について	人体の骨の名称や形状についてスケッチなどを行い学習する。		
5	筋の総論	筋組織の構造や機能について学習する。		
6	関節の機能と分類について	関節の基本構造と機能について理解する。関節の種類を軸とその働きから分類し、特徴について理解する。		
7	関節の運動方向	関節の運動方向について理解し、実技を行いながら方向を確認する。		
8	神経の総論	神経系の総論について学習し、上肢の神経や自律神経についても理解する。		
9	血管の総論	血管系の総論について学習し、上肢の血管やリンパ系について理解する。		
10	中枢神経系について①	大脳、小脳、脊髄などの機能的解剖について理解する。		
11	中枢神経系について②	脳神経や大脳皮質の機能局在、伝導路について理解する。		
12	感覚器について	皮膚の構造や視覚器、平衡感覚器、嗅覚期など感覚器の器官の名称と働きについて理解する。		
13	頭部 頭部の解剖と運動	頭部、頭部の解剖学と運動学について理解する。		
14	脊柱、胸郭の解剖と運動	脊柱、胸郭の解剖学と運動学について理解する。		
15	上肢解剖運動学 I のまとめ	上肢解剖運動学 I のまとめを行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)ほか		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
上肢解剖運動学Ⅱ		作業療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
人体の正常な構造を理解するために解剖学的な知識を学んでいく。人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深めていく。特に上肢の関節や運動学について講義をしていく。				
授業終了時の到達目標				
到達目標としては関節の分類や運動方向を理解する。また作業療法士として必要な上肢の関節の働きや、筋の作用を理解することで臨床場面で必要となる知識を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、解剖学と運動学を臨床的観点から結びつける。		
時間外に必要な学修				
予習として次回の範囲のテキストを読んでおく。 小テストを行うため前回の復習をしておく。				
回	テーマ	内容		
1	肩関節① 構造と胸鎖関節、肩鎖関節について	肩を構成する骨と関節と理解する。胸鎖関節、肩鎖関節の解剖と運動学について理解する。		
2	肩関節② 肩甲胸郭関節について	肩甲胸郭関節の解剖と肩甲骨の動きについて理解する。		
3	肩関節③ 肩甲上腕関節について	肩甲上腕関節の解剖と運動学について理解する。		
4	肩関節④ 肩の運動について(屈曲・伸展)	肩の動きである屈曲、伸展に作用する筋肉と運動学について理解する。		
5	肩関節⑤ 肩の運動について(外転など)	肩の外転、内転、外旋、内旋などに作用する筋肉と運動学について理解する。		
6	肩関節⑥ 肩の安定化機能について	肩関節の安定化について理解する。		
7	肩関節⑦ 上肢の神経や血管と肩の障害	上肢の血管や腕神経叢などの神経について理解する。肩に関わる疾患について理解する。		
8	肘関節① 肘関節の解剖	肘関節を構成する骨と関節の分類について理解する。		
9	肘関節② 肘の動きに作用する筋について	肘関節の動きに作用する筋肉について理解する。		
10	肘関節③ 肘関節の運動学	肘関節に関わる運動学的な機能について理解する。		
11	手関節① 手関節の解剖	手指の関節に関わる解剖について理解する。		
12	手関節② 手関節の運動学	手指の関節に関わる運動学的な機能について理解する。		
13	手指 手指の解剖と運動学	手指の関節に関わる運動学的な機能について理解する。		
14	上肢の筋の復習	上肢の筋肉の起始、停止、神経支配、作用について復習する。		
15	上肢解剖運動学Ⅱのまとめ	上肢解剖運動学Ⅱのまとめを行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)ほか		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
下肢体幹解剖運動学		作業療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
<p>人体の正常な構造を理解するために解剖学的な知識を学んでいく。人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深めていく。特に下肢の骨や筋肉を学び、関節の運動学を理解する。また、姿勢や歩行などについても解剖学的視点と運動学視点を踏まえて講義を行っていく。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>到達目標としては下肢の骨や筋肉の作用、関節の分類や運動方向を理解する。特に作業療法士として必要な下肢の解剖と運動学を学び、姿勢や歩行について理解することで臨床場面で必要となる知識を身につける。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<p>作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、解剖学と運動学を臨床的観点から結びつける。</p>		
時間外に必要な学修				
<p>予習として次回の範囲のテキストを読んでおく。 小テストを行うため前回の復習をしておく。</p>				
回	テーマ	内容		
1	骨盤の解剖と運動学	骨盤の構造と運動について理解する。		
2	股関節① 股関節の解剖	股関節を構成する骨について理解する。		
3	股関節② 股関節の動きに作用する筋肉	股関節の運動方向と作用する筋肉について理解する。		
4	股関節③ 股関節の運動学	股関節の運動学について理解する。		
5	股関節④ 股関節の疾患と下肢の神経、血管	股関節に関わる疾患と下肢の神経や血管の走行を理解する。		
6	膝関節① 膝関節の解剖	膝関節の解剖について理解する。		
7	膝関節② 膝関節の動きと作用する筋肉	膝関節の運動方向と作用する筋肉について理解する。		
8	膝関節③ 膝関節の運動学	膝関節の運動学について理解する。		
9	足関節① 足関節の解剖	足関節の解剖について理解する。		
10	足関節② 足関節の運動学	足関節の解剖について理解する。		
11	姿勢と重心①	人体と重心の関りをバイオメカニクスの観点から理解する。		
12	姿勢と重心②	重心と体の動きから寝返り、起居動作、立ち上がりなどの基本動作について理解する。		
13	歩行①	歩行の基礎について運動学的に理解する。		
14	歩行②と下肢解剖運動学のまとめ	歩行の様態や異常歩行について理解する。		
15	下肢の筋の復習と下肢体幹解剖運動学のまとめ	下肢の筋の起始、停止、支配神経、作用について復習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)ほか		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖運動学演習		作業療法学科/1年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	廣永 大祐
授業の概要				
解剖学での知識に触診という技術をあわせ体表面上から身体を観察する力を養う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・触診の基本がわかる。 ・四肢・体幹を構成する骨・靭帯・筋・血管を触診に特定でき、説明できるようにする。 ・各部位の異常に関連した障害、疾患名、診察法を挙げることが出来る。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の勤務経験 これまでの作業療法の経験を用いて、実際の触診を学生に指導する。		
時間外に必要な学修				
触診の技術向上筋・神経を覚えることと、次回の予習を行う。				
回	テーマ	内容		
1	体表面解剖学総論 触診の基本	触診の基礎知識となる人体の動きを医学的表現で理解する。触診を行う際の指の当て方、触診時の注意点		
2	骨・関節の触診 肩甲骨・鎖骨・上腕骨	肩甲骨・鎖骨・上腕骨の部分名称、触察		
3	橈骨・尺骨の触診 手根骨について	橈骨・尺骨・手根骨の部分名称、触察		
4	上肢帯における骨触診のまとめ 肩甲上腕関節に関する筋の触診	今までに習った上肢帯での骨触診のおさらい 肩関節内外旋に関わる筋の触察		
5	肩甲上腕間接に関する筋 肩甲胸郭関節に関わる筋	肩甲骨周囲の筋の触察		
6	手関節および手指に関わる筋 肘関節に関わる筋	手関節の運動に関わる筋の触察 肘関節屈曲並びに伸展に関わる筋の触察		
7	手関節および手指に関わる筋②	手指の運動に関わる筋の触察 手内在筋の触察		
8	骨・関節の触診 骨盤・大腿骨・膝関節周辺	骨盤を形成する骨の部分名称・触察 膝蓋骨の触察		
9	骨・関節の触診 足関節および足部周辺	下腿及び側部の骨の部分名称・触察		
10	下肢の靭帯	スカルパ三角関連 膝関節関連 足関節関連		
11	股関節に関わる筋	股関節の運動に関わる筋の触察		
12	膝関節に関わる筋	膝関節の運動に関わる筋の触察		
13	足関節に関わる筋	足関節の運動に関わる筋の触察		
14	体幹—胸郭・脊柱関連 胸郭に関連する諸組織	体幹、脊柱の骨の部分名称・運動に関わる筋の触察		
15	体幹—胸郭・脊柱関連 胸郭に関連する諸組織	頸部、背部、腰部の筋の触察		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 参考図書：ネッター解剖学カラーリングテキスト		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内臓学		作業療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	横倉 益弘
授業の概要				
解剖学は、医学の基礎であり人体の正常な構造を理解する学問である。分野として、肉眼解剖学、骨学、組織学、発生学、神経解剖学等がある。解剖学では、必要な解剖学名は覚えなければならないが、単に構造や名称を憶えるだけではなく、それぞれの生理機能を同時に理解しなければならない。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな生命現象が起こる場としての人体の構造および形態について、肉眼レベルから顕微鏡レベルまで学習する。形態と機能の関係を正しく理解し、正常と正常でない状態の違いを見分ける能力を身につける。 ・臓器(胸部・腹部・骨盤内臓)の位置と構造とその働きを理解する。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 理学療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
指定テキスト及び配布資料を読んで予習復習に努めること。				
回	テーマ	内容		
1	解剖学総論 解剖学とは	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学とは(定義・目的) ・人体の概要と解剖学用語 		
2	人体の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞 ・組織 ・器官、器官系、個体 		
3	人体の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・胚子の発生 ・器官系の発生 ・胎児の発生 ・出生後 		
4	内臓器系 ・内臓器官の基本構造	<ul style="list-style-type: none"> ・中空性器官 ・実質性器官 		
5	循環器系 1	【血管系】 ・心臓		
6	循環器系 2	・循環器の分類・動脈系 ・静脈系 ・胎生期の循環系		
7	循環器系 3	・循環器系における理学・作業療法との関連事項		
8	前半部分まとめ	前半の振り返り		
9	呼吸器系 1	<ul style="list-style-type: none"> ・鼻 ・咽頭 ・喉頭 		
10	呼吸器系 2	<ul style="list-style-type: none"> ・気管と気管支 ・肺 ・胸膜と縦隔 ・呼吸器系における理学・作業療法との関連事項 		
11	消化器系 1	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔 ・咽頭 ・食道 ・胃 ・小腸 		
12	消化器系 2	<ul style="list-style-type: none"> ・大腸 ・肝臓 ・胆嚢 ・膵臓 ・腹膜 ・消化器系における理学・作業療法との関連事項 		
13	後半部分まとめ	後半の振り返り		
14	国家試験問題を解く	国家試験問題を通じて内臓学の理解を更に深める		
15	内臓学まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 分野 解剖学(医学書院) ほか		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学実習		作業療法学科/1年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
<p>人体を構成する器官は、立体的に体格を構築すると共に、体腔内に立体的に納まっている。立体的な認識を得るためには、丁寧な予習に裏付けられた知識と実習室における系統的な観察が重要であり、構造と機能の相関理解に努めることで目的は達成できる。同時に篤志献体された方々のご厚意に触れ、医療人としてあるべき姿を心に刻む。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・人体の基本構造を学習し、筋骨格系、末梢神経系、脈管系、内臓系の構造と機能を理解する。 ・人体の立体的構造を立体視できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの臨床経験を活かして、臨床との関連性を伝えながら指導する。		
時間外に必要な学修				
教科書を授業前に確認しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	スケッチ学習 1	上肢帯の骨と筋のスケッチ		
2	スケッチ学習 2	下肢帯の骨と筋のスケッチ		
3	スケッチ学習 3	スケッチ復習		
4	グループ成果発表 1	骨の構造と骨改変の課題		
5	グループ成果発表 2	関節面の形態と靭帯の課題		
6	グループ成果発表 3	筋の構造と収縮連関の課題		
7	グループ成果発表 4	神経の構造と伝導・シナプス伝達の課題		
8	グループ成果発表 5	上肢帯の神経と血管の走行の課題		
9	グループ成果発表 6	下肢帯の神経と血管の走行の課題		
10	グループ成果発表 7	呼吸器系の課題		
11	グループ成果発表 8	循環系の課題		
12	グループ成果発表 9	消化器系の課題		
13	グループ成果発表 10	泌尿器系の課題		
14	グループ成果発表 11	内分泌系の課題		
15	解剖実習見学	筋骨格系の形と走行、神経血管系との位置関係を観察		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版(医学書院) ほか		習熟度試験(2回) グループ成果発表	50% 50%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動生理学 I		作業療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	廣永 大祐
授業の概要				
動物に特徴的とみなされる生体の高次機能について理解する。				
授業終了時の到達目標				
神経機能、運動、感覚、内分泌による調節などの高次の生命活動について、個々の役割と機能を理解しそれらが相互に協調して働いていることを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。		
時間外に必要な学修				
テキストを読み、授業で学んだ内容の復習を行い理解する。				
回	テーマ	内容		
1	生理学とは	授業内容の説明 生命のメカニズム、人体機能の基礎を学ぶ		
2	神経 I. 神経系機能一般	神経系の分類、神経系の構造、神経機能一般		
3	神経 II. 中枢神経系	中枢神経系の概要、分類、機能 脊髄の機能、形態、伝導路		
4	神経 II. 中枢神経系	間脳ならびに脳幹の機能		
5	神経 II. 中枢神経系	大脳ならびに小脳の機能、その他		
6	神経 III. 末梢神経系 IV. 自律神経系	脳神経と脊髄神経 自律神経の分類		
7	神経 IV. 自律神経系	自律神経性調節の特徴 自律機能の調節		
8	筋 I. 骨格筋	骨格筋の構造、骨格筋の微細構造、収縮の仕組み		
9	筋 I. 骨格筋	筋収縮のタイプ、筋収縮の力学、骨格筋のエネルギー代謝		
10	筋 I. 骨格筋 II. 心筋と平滑筋	筋疲労、骨格筋線維のタイプ 心筋、平滑筋		
11	運動 I. 骨格筋の神経支配	運動単位と α 運動ニューロン、神経-筋伝達、骨格筋の感覚受容器、筋紡錘と γ 運動ニューロン		
12	運動 II. 脊髄レベルでの運動調節	伸張反射、拮抗抑制、I b抑制、脊髄レベルの各反射について		
13	運動 III. 脳幹、小脳による運動調節	姿勢反射、脳神経が関与するその他の反射		
14	運動 IV. 大脳皮質、大脳基底核による調節	一次運動野、運動前野、補足運動野 錐体路系と錐体外路系		
15	まとめ	運動生理学 I のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト: 生理学 -コメディカルのための専門分野テキスト- (中外医学社) ほか		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動生理学Ⅱ		作業療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	廣永 大祐
授業の概要				
生体の内部環境を好適に保つための機能のうち、生命維持に不可欠な基本的機能について理解する。				
授業終了時の到達目標				
感覚、血液と体液、循環、呼吸などの個々の機能と役割を理解し、運動生理学Ⅰで学んだ機能と共に、生命現象は各機能が協調して維持されていることを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。		
時間外に必要な学修				
テキストを読み、授業で学んだ内容の復習を行い理解する。				
回	テーマ		内容	
1	感覚 Ⅰ. 感覚総論		感覚受容器と適刺激、感覚の神経経路、刺激と感覚	
2	感覚 Ⅱ. 体性感覚		触圧覚、温度感覚、体の位置や動きの感覚、痛覚	
3	感覚 Ⅲ. 内臓感覚 Ⅳ. 特殊感覚		臓器感覚、内臓痛覚 視覚	
4	感覚 Ⅳ. 特殊感覚		聴覚、平衡感覚、味覚と嗅覚	
5	血液 Ⅰ. 血液の組成と一般的性質・機能		血液の組成、機能、一般的(物理的)性質	
6	血液 Ⅱ. 血球		赤血球、白血球、血小板	
7	血液 Ⅲ. その他		止血と血液凝固、血液型、	
8	循環 Ⅰ. 循環経路 Ⅱ. 心臓の機能		体循環と肺循環 心臓の特性、心電図	
9	循環 Ⅲ. 血管		血管の動き、血液速度と脈拍、血圧	
10	循環 Ⅳ. 循環の調節		局所性循環調節、ホルモン性循環調節、神経性循環調節	
11	循環 Ⅳ. 循環の調節		心拍出量の調節、静脈還流量の調節、リンパ循環、その他	
12	呼吸		外呼吸と内呼吸 呼吸器と呼吸運動	
13	呼吸		肺の換気機能 呼吸器の異常による換気障害	
14	呼吸		ガス交換 血液による酸素・二酸化炭素の運搬	
15	まとめ		運動生理学Ⅱのまとめ	
教科書・教材			評価基準	評価率
テキスト: 生理学 -コメディカルのための専門分野テキスト-(中外医学社) ほか			期末試験	100%
				その他

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動生理学Ⅲ		作業療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	廣永 大祐
授業の概要				
生体の内部環境を好適に保つための機能のうち、生命維持に不可欠な基本的機能について理解する。				
授業終了時の到達目標				
内分泌、消化吸収、代謝、排泄などの個々の機能と役割を理解し、運動生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ機能と共に、生命現象は各機能が協調して維持されていることを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。		
時間外に必要な学修				
テキストを読み、授業で学んだ内容の復習を行い理解する。				
回	テーマ	内容		
1	内分泌 ホルモンの種類と作用一般	ホルモンの種類、作用様式、分泌の調整		
2	内分泌 各内分泌器官とそのホルモン作用	視床下部、下垂体前葉、下垂体後葉、甲状腺、副甲状腺		
3	内分泌 各内分泌器官とそのホルモン作用	副腎皮質、副腎髄質、膵臓、精巣、卵巣、その他		
4	生殖・成長と老化①	生殖器の働き、妊娠、成長と老化		
5	生殖・成長と老化②	生殖器の働き、妊娠、成長と老化		
6	消化・吸収 口腔と食道、胃における消化	口腔、食道、胃における運動、唾液・胃液の性状と生理作用並びに分泌機序など		
7	消化・吸収 小腸における消化と吸収	小腸の運動と腸内容の移送、膵液、胆汁、小腸における吸収		
8	大腸における消化と吸収 肝臓の機能	大腸の運動、大腸における吸収、腸内細菌の作用		
9	栄養と代謝	糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル、エネルギー代謝		
10	栄養素と代謝	糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル、エネルギー代謝		
11	体温①	産熱と放熱、体温調節、体温の変動、体温異常、暑さ寒さへの適応		
12	体温②	産熱と放熱、体温調節、体温の変動、体温異常、暑さ寒さへの適応		
13	排泄機能の生理①	腎臓と尿産生、排尿の機構、体液		
14	排泄機能の生理②	腎臓と尿産生、排尿の機構、体液		
15	まとめ	運動生理学Ⅲのまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト：生理学 -コメディカルのための専門分野テキスト- (中外医学社)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動生理学演習		作業療法学科/1年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	廣永 大祐
授業の概要				
生体の内部環境を好適に保つための機能のうち生命維持に不可欠な、基本的機能について理解する。				
授業終了時の到達目標				
運動生理学Ⅰ～Ⅲで学んだことを演習にて経験し、生命現象は各機能が協調して維持されていることを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。		
時間外に必要な学修				
テキストを読み、授業で学んだ内容の復習を行い理解する。				
回	テーマ	内容		
1	運動生理学演習とは	授業概要の説明 グループワークについて		
2	呼吸①	%肺活量や1秒率などの測定		
3	呼吸②	%肺活量や1秒率などの測定		
4	血圧①	血圧の意味、異常、測定原理など		
5	血圧②	血圧の意味、異常、測定原理など		
6	反射①	運動調節とそれぞれの反射について		
7	反射②	運動調節とそれぞれの反射について		
8	体温調節①	体温調節と生理的な体温の変動について		
9	体温調節②	体温調節と生理的な体温の変動について		
10	筋収縮様式	筋収縮のタイプについて、筋疲労など		
11	グループワーク ①計画	グループで研究テーマの計画を作成		
12	グループワーク ②検証	計画に沿って内容を実験、検証する		
13	グループワーク ③資料作成	検証結果をまとめ、発表準備を行う		
14	グループワーク ④発表	各グループでの発表		
15	まとめ	運動生理学演習のまとめ 本試験について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト：生理学 -コメディカルのための専門分野テキスト- (中外医学社)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間発達学		作業療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
発達的一般原則、発達理論を学習し、胎児期から老年期に至るまでの、人間の身体的な成長・発達および精神的な発達を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達的一般原則、発達理論の概略を理解する。 ・ 発達に関係する因子と理論を理解する。 ・ 情緒の発達、社会性の発達、運動の発達等を家族関係、母子相互作用の視点から理解する。 ・ 小児期から老年期までの身体的・心理的発達の特質と変化を関連付けて説明できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、実例を挙げながら伝える。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に教科書で予習し、配布資料をもとに教科書と照らし合わせながら復習しましょう。 ・ これまでと今後の人生を考えながら、ライフステージの各段階における特徴を学びましょう。 				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション、発達概念	本講義について 発達の区分、定義、成長曲線、発達の原則、発育曲線		
2	発達理論	エリクソン・ピアジェの発達理論		
3	胎生期から新生児期の発達	胎生期、新生児期の身体・認知の発達について		
4	乳児期の発達	乳児期の身体・認知・社会性の発達について		
5	幼児期から学童期の発達	幼児期前期・後期、学童期の身体・認知・社会性の発達について		
6	青年期から老年期の発達	青年期、成人期、老年期の身体・認知・社会性の発達について		
7	上肢機能の発達	リーチ、握りとつまみ、操作、リリース、目と手の協調性の発達		
8	ADLの発達	食事、排泄、更衣など日常生活動作獲得に至るまでの発達		
9	遊びの発達	児にとっての遊びについて		
10	姿勢反射/反応 1	原始反射、姿勢反射/反応について 脊髄レベル		
11	姿勢反射/反応 2	脳幹レベル		
12	姿勢反射/反応 3	中脳レベル、大脳皮質レベル		
13	運動発達 1	新生児期、乳児期の腹臥位・背臥位		
14	運動発達 2	新生児期、乳児期の座位、立位		
15	発達検査について	発達検査とは？遠城寺式乳幼児分析的発達検査法、日本版デンバー式発達スクリーニング検査		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる 人間発達学 (医歯薬出版)		期末試験	100.0%	

疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学		作業療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	廣永 大祐
授業の概要				
病理学とは何か? 人類の歴史で疾患の変遷を理解する。主な疾患の病因を理解する。				
授業終了時の到達目標				
疾患の病因に関して外因と内因について説明できる。 臓器毎に主な疾患の病因を説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。		
時間外に必要な学修				
テキストを読み、授業で学んだ内容の復習を行い理解する。				
回	テーマ	内容		
1	組織細胞の修復と再生	壊死とアポトーシス、再生、創傷治癒、肉芽組織、骨折、異物処理		
2	循環障害	うっ血、充血、虚血、梗塞(血栓、塞栓)、出血、壊死、ショック		
3	炎症、感染症、免疫機構	炎症とはなにか、感染の成立、感染防御機構、免疫反応、アレルギー、自己免疫疾患		
4	腫瘍	発癌機序、良性と悪性の鑑別、腫瘍発生の要因、転移(血行性、リンパ行性、播種)、癌の疫学		
5	遺伝と先天異常	遺伝病、染色体異常症、単一遺伝子病、遺伝子診断、先天異常の病因		
6	代謝異常	糖尿病(I型、II型)、高脂血症、痛風、黄疸、アミロイドーシス、糖原病		
7	循環器と呼吸器の疾患	虚血性心疾患、心筋症、弁膜症、肺癌、肺炎、間質性肺炎、結核、気管支喘息		
8	消化器の疾患	食道癌、胃潰瘍、胃癌、大腸癌、潰瘍性大腸炎、ウイルス肝炎、肝癌、肝硬変、膵癌、胆石症		
9	内分泌系の疾患	下垂体腫瘍、甲状腺機能亢進症、橋本病、甲状腺癌、クッシング病、アジソン病、		
10	造血期の疾患	貧血の分類、白血病の分類、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血友病		
11	泌尿器・生殖器の疾患	急性糸球体腎炎、腎癌、膀胱癌、前立腺肥大、前立腺癌、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、乳癌		
12	運動器、皮膚の疾患	骨折、関節リウマチ、骨腫瘍、椎間板ヘルニア、軟部腫瘍、皮膚の感染症、皮膚腫瘍		
13	脳・神経系の疾患	脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、脳腫瘍、パーキンソン病、アルツハイマー病、脱髄疾患、感染症		
14	炎症の経時的変化について	組織や細胞の壊死、充血		
15	感染症について	感染症 ウイルス 細菌		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト: 病理学 -コメディカルのための専門分野テキスト-(中外医学社)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床心理学		作業療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	福田 琴
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理分野の疾患の理解。 各疾患の治療法を学ぶ。 自分たちの職種が出来る範囲のことを知る。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理分野の疾患を理解する。 各疾患の治療法を理解する。 自分たちの職種で出来る各疾患の治療を学ぶと共に、自分で考える。 				
時間外に必要な学修				
授業前に教科書、配布資料を確認しておくこと。				
回	テーマ	内 容		
1	臨床心理学概論	臨床心理学の歴史 各種心理テストの概略 など		
2	神経症 1 (不安障害)	不安障害の種類 強迫性障害とパニック障害に対する暴露療法 など		
3	神経症 2 (身体表現性障害)	転換性障害のメカニズム 心気症と心身症の違い など		
4	神経症 3 (解離性障害) 適応障害	解離性障害の防衛メカニズム 離人症性障害の症状 など		
5	人格障害 1	各クラスターに属するパーソナリティ障害 など		
6	人格障害 2	パーソナリティ障害の合併 クラスターC (回避性パーソナリティ障害など)		
7	摂食障害 統合失調症について	神経性無食欲症、過食発作 統合失調症の概念、歴史、下位分類		
8	依存症 気分障害について	依存症の種類、依存と乱用の違い 双極性障害と大うつ病の違い、認知行動療法		
9	てんかん、睡眠障害 性障害について	てんかんの原因、発作の種類、脳波の特徴 睡眠・覚醒リズム障害の概要、性障害の分類		
10	子供の精神障害とその周辺について 1	精神遅滞と知能指数の関係、学習障害の種類 注意欠陥・多動性障害の原因と症状		
11	子供の精神障害とその周辺について 2	社会問題となった子供の異常の数々を知る。 児童虐待について		
12	老化とその障害 リラクゼーションについて	アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違い 各種リラクゼーション法の概要		
13	精神療法 力動精神療法	フロイト精神分析、家族療法、集団療法 力動精神療法の流れ、自我心理学の概要		
14	認知行動療法 支持療法	認知行動療法の概要、ベックの方法論 支持療法の歴史、心理療法的アプローチ		
15	薬物療法 セルフアセスメント	薬物の種類と副作用、脳内ホルモンの働き 臨床心理学全体の総括		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・PT・OT 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学 (医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
一般臨床医学 I		作業療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
医学一般について幅広く知識を深めていく学問であり、救命救急医療をはじめ、外科など代表的な疾患の概要・症状・治療について習得する。				
授業終了時の到達目標				
救命救急医療について理解すると共に命の尊さを学ぶ。 授業で紹介する代表的な疾患の理解を深め、解剖運動学や運動生理学など基礎医学との関連性を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 病院や介護保険施設での経験を活かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
予習復習に努めること。				
回	テーマ	内 容		
1	授業概要の説明 救命救急医療について	授業概要の説明⇒一般臨床医学は何を学ぶのか、成績評価 心肺蘇生法⇒一次救命処置		
2	ショックについて	ショックについて 一般症状、種類、治療		
3	外傷とその主な処置法 外科総論 1	外傷とその主な処置法や生命に関わる疾患 外科総論⇒機械的損傷		
4	外科総論 2	非機械的損傷について		
5	感染性疾患と末梢血行障害について	感染成立のための3因子、病原微生物の種類 感染症の種類、代表的な感染症疾患、末梢血行障害		
6	腫瘍と臓器移植および免疫について	腫瘍：良性腫瘍と悪性腫瘍 臓器移植、免疫について		
7	免疫について	免疫：体液性免疫、細胞性免疫 抗原抗体反応（アレルギー）		
8	皮膚疾患について 1	皮膚の構造、皮疹の特徴 湿疹・皮膚炎、皮膚薬について		
9	皮膚疾患について 2	代表的な皮膚疾患の症状とその原因および治療法 皮膚感染症、動物寄生虫による疾患、物理的皮膚障害		
10	泌尿器疾患について	泌尿器の解剖と生理、診断と検査法 代表的な泌尿器疾患		
11	泌尿器疾患および男性生殖器疾患について	代表的な男性生殖器疾患		
12	女性生殖器疾患と受精・出産に関する知識の習得	女性生殖器の構造、代表的な女性生殖器疾患について 受精と出産		
13	耳鼻咽喉科疾患	代表的な耳鼻咽喉科疾患における症状や治療法		
14	眼科疾患について	白内障やぶどう膜炎など眼科疾患の診断・症状・治療法		
15	プライマリーケア	初期診断の役割と重要性		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PTOTのための一般臨床医学（医歯薬出版）		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
一般臨床医学Ⅱ		作業療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
一般臨床医学Ⅱでは、栄養知識が作業療法を展開する上でとても重要である。また、薬物に関する知識も同様で、薬物の効用はもちろんのこと、副作用などについても触れ、作業療法業務に活かす。				
授業終了時の到達目標				
主たる病態や疾患に対する栄養指導と薬物療法の基礎知識を習得し、他者に説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 病院や介護保険施設での経験を活かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
予習復習に努めること				
回	テーマ	内容		
1	授業概要の説明 作業療法における栄養学の重要性	一般臨床医学Ⅱで何を学ぶのか、成績評価 作業療法における栄養学を学ぶことの重要性		
2	低栄養とフレイル	低栄養、フレイル		
3	エネルギー代謝	エネルギー消費量、基礎代謝量		
4	栄養素とその役割	五大栄養素、炭水化物、たんぱく質 脂質、ビタミン、ミネラル		
5	作業活動時に必要な栄養	作業活動における必要栄養量 栄養素と必要量の捉え方		
6	主な病態に対する栄養療法1	サルコペニアの栄養療法 ロコモティブシンドロームの栄養療法		
7	主な疾患に対する栄養療法2	脳卒中の栄養療法、慢性心不全の栄養療法 COPDの栄養療法		
8	薬が作用する仕組み 自律神経	薬と受容体、血中濃度、投薬方法 交感神経作動薬・遮断薬、抗コリン薬 ほか		
9	アレルギー 血液	プロスタグランジン、ヒスタミン、セロトニン 抗凝固薬、輸血、ほか		
10	炎症 呼吸器	ステロイド薬、非ステロイド薬 気管支ぜんそく治療薬、去痰薬 ほか		
11	循環器	降圧薬、血管拡張薬、カルシウム拮抗薬 ほか		
12	消化器	胃液分泌の仕組み 消化性潰瘍治療薬、止痢薬 ほか		
13	代謝 内分泌	糖尿病、インスリン製剤、骨粗しょう症薬 甲状腺ホルモン薬、妊娠中の薬剤投与		
14	中枢神経系	パーキンソン病、抗不安薬 睡眠薬、抗精神病薬、抗てんかん薬 ほか		
15	抗菌薬 抗がん薬	細菌の種類、抗生物質、抗真菌薬 代謝拮抗薬、ホルモン薬 ほか		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでまなぶ薬理学(医学書院) リハベーシック 生化学・栄養学(医歯薬出版)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学		作業療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	横倉 益弘
授業の概要				
リハビリテーション(作業療法)に関係深い内科系疾患について、疾患概念や病態および治療法について基本的な知識を習得する				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ■病態、検査、治療という疾患理解と、からだの構造と機能の関連を理解する ■解剖・生理・疾患から基礎的な知識を身につける 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士として5年以上の実務経験 ・急性期、回復期、維持期の医療施設でのリハビリテーションを実践した経験を活かし学生に分かりやすく内部障害に対し説明する 		
時間外に必要な学修				
■内臓学での資料を用いて予習する				
回	テーマ	内容		
1	内科学オリエンテーション 内臓学の振り返り①	シラバス等を用いてオリエンテーション 消化器		
2	内臓学振り返り② 循環器疾患	循環器疾患 解剖と生理の復習		
3	循環器疾患 1	循環器概論 解剖、生理、主要症候		
4	循環器疾患 2	血圧異常 診察 検査		
5	循環器疾患 3	心不全 虚血性心疾患 不整脈		
6	循環器疾患 4	心臓弁膜症 心筋疾患 心膜疾患		
7	循環器疾患 5	大動脈疾患 末梢動脈疾患 静脈・リンパ管疾患		
8	循環器疾患まとめ	循環器疾患について振り返る		
9	内臓学振り返り③ 呼吸器	呼吸器疾患 解剖と生理の復習		
10	呼吸器疾患 1	解剖と生理 症候 呼吸器診察		
11	呼吸器疾患 2	呼吸機能検査 画像検査		
12	呼吸器疾患 3	呼吸不全 呼吸器感染症 免疫・アレルギー性肺疾患		
13	呼吸器疾患 4	閉塞性肺疾患 肺腫瘍 肺循環障害 換気異常		
14	呼吸器疾患まとめ	呼吸器疾患について振り返る		
15	内科学まとめ	循環器疾患及び呼吸器疾患のまとめ 定期試験の試験範囲について説明		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ■病気がみえる Vol.2 循環器 第4版 メディックメディア ■病気がみえる Vol.4 呼吸器 第3版 メディックメディア 		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科学 I		作業療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	横倉 益弘
授業の概要				
整形外科に関する代表的な疾患の病態、治療を理解する				
授業終了時の到達目標				
整形外科に関する代表的な疾患の病態を各種検査から理解し、それに関連した保存療法やリハビリテーションに役立つことができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士として5年以上の実務経験 病院での実務経験を生かして学生に分かりやすく説明する。 		
時間外に必要な学修				
■指定テキストを読んで予習復習に努めること。				
回	テーマ	内容		
1	・運動器の概観	<ul style="list-style-type: none"> 運動器の構成要素 骨の形態による分類 モデリング リモデリング 		
2	・診察 ・症候	<ul style="list-style-type: none"> 診察の流れ 異常歩行 評価 代表的な症候 		
3	・検査	<ul style="list-style-type: none"> 検査総論 徒手検査 単純X線検査 CT MRI 造影検査 関節鏡検査 筋電図 		
4	・治療	<ul style="list-style-type: none"> 保存療法総論 整形外科的手術総論 		
5	・体幹の疾患(1) ・体幹の概観	<ul style="list-style-type: none"> 脊椎/脊髄疾患総論 脊椎損傷 脊椎圧迫骨折 脊髄損傷 椎間板ヘルニア 脊柱管狭窄症 		
6	・体幹の疾患(2)	<ul style="list-style-type: none"> 脊椎分離症 脊椎分離すべり症 OPLL(後縦靭帯骨化症) 脊椎側弯症 		
7	・末梢神経損傷総論	<ul style="list-style-type: none"> 腕神経叢損傷 胸郭出口症候群 前腕の末梢神経麻痺 下肢末梢神経損傷 		
8	前半の振り返り	前半のまとめ		
9	・下肢の疾患 ・股関節疾患総論	<ul style="list-style-type: none"> 股関節解剖及び正常画像 大腿骨骨頭壊死 DDH(股関節形成不全) 		
10	・膝半月板損傷 ・膝靭帯損傷	<ul style="list-style-type: none"> 内外側半月板損傷 前十字靭帯損傷 		
11	・足関節靭帯損傷 ・アキレス腱断裂	<ul style="list-style-type: none"> 足関節外側靭帯損傷(足関節捻挫) アキレス腱断裂 		
12	・外傷総論 ・骨折総論	<ul style="list-style-type: none"> 鎖骨骨折 上腕骨骨折 橈骨遠位端骨折 手の骨折 骨盤骨折 大腿骨頸部骨折 大腿骨転子部骨折 		
13	・骨折 ・脱臼総論	<ul style="list-style-type: none"> 下腿/足部の骨折 肩関節脱臼 肩鎖関節脱臼 肘関節脱臼 股関節脱臼 		
14	スポーツ外傷・障害総論	<ul style="list-style-type: none"> 野球肘 OCD(離断性骨軟骨炎) 		
15	整形外科 I まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 整形外科 I のまとめ 定期試験の試験範囲について説明 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気がみえるVol.11 運動器・整形外科(メディク・メディア)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科Ⅱ		作業療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	横倉 益弘
授業の概要				
整形外科の一般的疾患について病態と治療について解説する。				
授業終了時の到達目標				
整形外科の一般的疾患に対する診断法と治療法を理解し、保存療法やリハビリテーションの実施に役立てることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士として5年以上の実務経験 急性期、回復期、維持期の医療施設でのリハビリテーションを実践した経験を活かし学生に分かりやすく整形外科疾患に対し説明する 		
時間外に必要な学修				
■授業内容を振り返りポイントを復習する。				
回	テーマ	内容		
1	<ul style="list-style-type: none"> 肘の疾患総論 上腕骨外側/内側上顆炎 	<ul style="list-style-type: none"> 肘の解剖及び正常画像 上腕骨外側/内側上顆炎の症状及び病態 		
2	<ul style="list-style-type: none"> 手の疾患総論 腱鞘炎・槌指(マレット変形) 	<ul style="list-style-type: none"> 腱鞘炎 ばね指 ・槌指(マレット変形) 		
3	<ul style="list-style-type: none"> 下肢の疾患 股関節疾患総論 	<ul style="list-style-type: none"> 股関節解剖及び正常画像 大腿骨骨頭壊死 ・DDH(股関節形成不全) 		
4	<ul style="list-style-type: none"> 膝半月板損傷 膝靭帯損傷 	<ul style="list-style-type: none"> 内外側半月板損傷 前十字靭帯損傷 		
5	<ul style="list-style-type: none"> 足関節靭帯損傷 アキレス腱断裂 	<ul style="list-style-type: none"> 足関節外側靭帯損傷(足関節捻挫) アキレス腱断裂 		
6	<ul style="list-style-type: none"> 外傷総論 骨折総論 	<ul style="list-style-type: none"> 鎖骨骨折・上腕骨骨折 ・橈骨遠位端骨折 ・手の骨折 骨盤骨折 大腿骨頸部骨折 ・大腿骨転子部骨折 		
7	<ul style="list-style-type: none"> 骨折 脱臼総論 	<ul style="list-style-type: none"> 下腿/足部の骨折 ・肩関節脱臼 ・肩鎖関節脱臼 肘関節脱臼 ・股関節脱臼 		
8	スポーツ外傷・障害総論	<ul style="list-style-type: none"> 野球肘 OCD(離断性骨軟骨炎) 		
9	前半の振り返り	前半のまとめ		
10	<ul style="list-style-type: none"> 体幹の疾患(1) 体幹の概観 	<ul style="list-style-type: none"> 脊椎/脊髄疾患総論 ・脊椎損傷 ・脊椎圧迫骨折 脊髄損傷 ・椎間板ヘルニア ・脊柱管狭窄症 		
11	<ul style="list-style-type: none"> 体幹の疾患(2) 	<ul style="list-style-type: none"> 脊椎分離症 ・脊椎分離すべり症 OPLL(後縦靭帯骨化症) ・脊椎側弯症 		
12	<ul style="list-style-type: none"> 末梢神経損傷総論 	<ul style="list-style-type: none"> 腕神経叢損傷 ・胸郭出口症候群 前腕の末梢神経麻痺 ・下肢末梢神経損傷 		
13	<ul style="list-style-type: none"> リウマチ性疾患総論 慢性関節疾患 	<ul style="list-style-type: none"> RA(関節リウマチ) ・OA(変形関節症) 		
14	<ul style="list-style-type: none"> 後半の振り返り 国家試験問題 	<ul style="list-style-type: none"> 後半のまとめ 国家試験問題を解く 		
15	整形外科Ⅱまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 整形外科Ⅱのまとめ 定期試験の試験範囲について説明 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科(メディク・メディア)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経病学 I		作業療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
神経解剖・神経生理などの基本的医学知識に基づき、各疾患の病因や臨床症状、治療などについて学習する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・神経系のはたらき、役割、機能について理解する。 ・各神経疾患の症状、治療法、予後について理解する。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 病院での臨床経験を活かし、各疾患の特徴を分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・予習：基礎知識として解剖学、生理学を振り返っておきましょう。 ・復習：配付資料と教科書を照らし合わせて学習しましょう。 				
回	テーマ	内容		
1	神経系の構造と機能	神経系の全体像、ニューロンとグリア細胞 自律神経系、脳の可塑性とリハビリテーション		
2	神経系の構造と神経症候 1	MRIで立体的に脳を理解する 大脳皮質		
3	神経系の構造と神経症候 2	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳・脳幹・小脳		
4	脳動脈系と脳神経の全体像	脳動脈系 脳神経		
5	運動と感覚	運動の異常と調整 感覚の異常		
6	神経変性疾患 1 (大脳皮質、基底核)	神経変性疾患総論、Parkinson病、Parkinson症候群		
7	神経変性疾患 2	線条体黒質変性症、進行性核上性麻痺 Huntington病		
8	神経変性疾患 3 (小脳)	脊髄小脳変性症(SCD)		
9	神経変性疾患 4 (脊髄)	筋萎縮性側索硬化症(ALS) 脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症		
10	脱髄性疾患 1	脱髄疾患総論、多発性硬化症		
11	脱髄性疾患 2	視神経脊髄炎、急性散在性脳脊髄炎		
12	末梢神経障害 1	末梢神経疾患総論(概念、分類) Guillan-Barre症候群、Fisher症候群、CIDP		
13	末梢神経障害 2	Charcot-marie-Tooth病、家族性アミロイドニューロパチー 糖尿病性ニューロパチー、Bell麻痺		
14	筋疾患 1	筋疾患総論、筋ジストロフィー		
15	筋疾患 2	ミトコンドリア脳筋症、周期性四肢麻痺 多発性筋炎、皮膚筋炎		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気が見えるvol.7 脳・神経 (メディックメディア)		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経病学Ⅱ		作業療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	平岡 英樹
授業の概要				
脳血管障害、頭部外傷、先天奇形、脳神経損傷、脊髄疾患、絞扼性末梢神経障害について、症状・診断・治療を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・解剖学と生理学の知識に基づき、各疾患の病態(生じる仕組み)を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期・神経難病病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
症状発現のメカニズムを理解するため、神経系の解剖学・生理学を復習すること。				
回	テーマ	内容		
1	中枢神経系解剖生理学	確認テスト、脳の機能局在と伝導路		
2	脳血管障害総論	脳動脈の走行と灌流域、脳血管障害の分類、		
3	脳梗塞総論 脳梗塞各論(1)	アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症		
4	脳梗塞各論(2)	ラクナ梗塞、一過性脳虚血発作、Wallenberg症候群、小脳梗塞、頸動脈狭窄症		
5	脳梗塞各論(3)	脳梗塞の画像診断 急性期治療		
6	脳内出血	被殻出血、視床出血、脳幹出血、小脳出血、皮質下出血		
7	脳動脈瘤とくも膜下出血	脳動脈瘤の形成、好発部位、分類、画像所見、くも膜下出血の症状・経過・治療		
8	脳神経とその障害(1)	脳神経の解剖と生理、脳神経障害		
9	脳神経とその障害(1)	脳神経の解剖と生理、脳神経障害(I~IV, VI)		
10	脳神経とその障害(2)	脳神経の解剖と生理、脳神経障害(V, VII~XII)		
11	脊髄とその障害	脊椎・脊髄の解剖生理、脊髄の血管と灌流域、脊髄梗塞、脊髄動静脈奇形、脊髄空洞症		
12	末梢神経とその障害	末梢神経の解剖生理、絞扼・圧迫性ニューロパシー		
13	頭部外傷	頭蓋骨骨折、急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、脳内血腫、脳挫傷、慢性硬膜下血腫、びまん性軸索損傷		
14	先天奇形	二分脊椎、Chiari奇形、頭蓋縫合早期癒合症		
15	まとめ	要点の再確認		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・病気が見えるvol.7 脳・神経 (メディックメディア)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神医学		作業療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
精神医学の基礎について学び、作業療法業務に役立てる。 国家試験に準拠した内容を十分に理解して、日常業務に役立てる。				
授業終了時の到達目標				
精神医学の基礎について、他者に説明することができる。 定期試験6割以上の正答。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
指定テキストを使用し、予習復習に努める。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要の説明 精神医学とは	授業概要の説明 精神医学とは、精神障害にかかわる概念		
2	精神障害の成因と分類	精神障害の成因、精神障害の分類 作業療法との関連事項		
3	精神機能の障害と精神症状 1	精神症状の把握、意識とその障害、注意と見当識の障害 知能とその障害、性格とその障害		
4	精神機能の障害と精神症状 2	記憶とその障害、感情とその障害、知覚とその障害 自我意識とその障害、理学療法との関連		
5	精神障害の診断と評価	診断・評価の方法、病歴の聴取、身体的検査法 心理検査法、精神症状の評価 ほか		
6	脳器質性精神障害	脳器質性精神障害とは、認知症とその特徴 大脳皮質の変性疾患、血管性認知症 ほか		
7	症状性精神障害	症状性精神障害とは、主な疾患 作業療法との関連事項		
8	精神作用物質による精神および行動の障害	精神作用物質による障害の定義、アルコール関連精神障害 薬物依存による精神障害 ほか		
9	てんかん	てんかんとは、てんかんの発作症状と精神症状 てんかん、関連発作疾患の分類、経過と予後 ほか		
10	統合失調症およびその関連障害	統合失調症とは、疫学、精神症状の特徴 病型、成因ないし病態 ほか		
11	気分(感情)障害	気分(感情)障害とは、うつ病、躁うつ病 持続性気分障害、経過および予後 ほか		
12	神経症性障害	神経症性障害のとらえ方、不安および恐怖を中心とする神経症性障害、強迫を中心とする神経症性障害 ほか		
13	生理的障害および身体的要因に関連した障害	生理的レベルと身体的レベルの障害、摂食障害 非器質性の睡眠障害、性関連障害 ほか		
14	成人のパーソナリティ・行動・性の障害	パーソナリティの障害、行動(習慣および衝動)の障害 性の障害、理学療法との関連		
15	総まとめ	総まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
健康管理学		作業療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
健康の概念を理解し、健康に影響を与える要因を考える。国や市町村が示す施策の中で、作業療法士が対象者の健康増進、疾病の予防に関わる必要性を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
生活習慣、環境因子など健康に影響する要因を考え、健康管理が実践できる。様々な場面で、作業療法士が対象者の健康増進、疾病の予防に関わることの必要性を理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 病院での作業療法士としての臨床経験を活かし、学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習：あらかじめ該当するテーマに関する教科書に目を通しておく。 ・ 復習：配布資料と教科書を照らし合わせながら学習する。 ・ 私生活において、関連するニュースや自身の健康管理に結びつけてみましょう。 				
回	テーマ	内容		
1	健康とは ヘルスプロモーションと作業療法	健康の定義、健康管理、環境と健康、予防 国際保健、ヘルスプロモーションとは		
2	疫学 人口静態統計	疫学の定義と疫学指標 国勢調査の概要、わが国の人口特性		
3	保健統計指標	人口動態統計、平均寿命、傷病統計		
4	生活習慣(ライフスタイル)の現状 と対策 1	行動と社会、健康日本21、健康増進法 食生活		
5	生活習慣(ライフスタイル)の現状 と対策 2	身体活動・運動、喫煙、飲酒 睡眠・休養・ストレス		
6	生活習慣病の健康管理 1	循環器疾患、代謝疾患、がん、骨関節疾患の概要		
7	生活習慣病の健康管理 2	各疾患の予防、まとめ		
8	生活習慣病の健康管理 3	疾患の概要と予防について発表		
9	健康管理の方法 1	生活習慣について振り返る 生活習慣改善に向けた取り組みの実施		
10	健康管理の方法 2	生活習慣改善後の結果を振り返る		
11	地域の保健予防システム 社会保障制度	保健所と市町村保健センターの役割 医療制度、福祉制度、所得保障		
12	高齢者・成人の健康管理	健康増進事業、介護保険法の概要、高齢者保健の課題 一次予防、二次予防、三次予防		
13	母子の健康管理	母子保健事業、児童虐待、小児医療費公費負担制度 健やか親子21		
14	学校・職場の健康管理	健康診断と保健指導、学校給食、栄養教諭 一般健康診断、特殊健康診断、職業病の予防		
15	災害と健康管理	災害・健康危機管理対策 被災地での健康、作業療法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
基礎から学ぶ健康管理概論(南江堂)		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
老年学		作業療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・身体面・精神面・社会面・生活面の観点から高齢者の理解を深めていく。 ・老化にともなう生じる障害や病態について理解を深める。 ・高齢障害者における作業療法士の役割を考えていく。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・老化についてのメカニズムを理解する。 ・老年期の身体的変化、精神的変化を理解する。 ・高齢者の特有な疾病について理解する。 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの高齢期領域の作業療法実践を活かして授業を進めていく。			
時間外に必要な学修				
該当範囲の教科書の確認と、解剖学・運動学・生理学等の復習をしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	加齢と老化	1、老化と老年病の考え方 2、加齢に伴う変化(生理・運動機能、精神心理面)		
2	高齢者へのアプローチ	1、高齢者の定義 2、高齢者の接し方・評価 3、高齢者と薬物療法		
3	老年症候群 1	高齢者に多い症候と老年症候群 1		
4	老年症候群 2	高齢者に多い症候と老年症候群 2		
5	循環器疾患	1、高齢者の循環器疾患の特徴		
6	呼吸器疾患	1、高齢者の呼吸器疾患の特徴		
7	骨・運動器疾患	1、高齢者の骨粗鬆症と運動器疾患の特徴		
8	高齢者の嚥下・排泄	1、高齢者の嚥下機能 2、高齢者の排泄機能		
9	神経疾患 1	1、高齢者の脳血管疾患の特徴 2、パーキンソン病の特徴		
10	神経疾患 2	1、認知症 2、うつ		
11	神経疾患 3	認知機能の評価(HDS-R、MMSE-Jを中心に)		
12	地域の高齢者との交流 1	高齢者から話を聞く ※状況により変更有		
13	地域の高齢者との交流 2	振り返りとまとめ		
14	高齢者を取り巻く環境 1	1、サクセスフルエイジング 2、高齢社会の動向 3、高齢者の退院支援 4、高齢者の在宅医療		
15	高齢者を取り巻く環境 2 まとめ	1、介護と虐待問題 まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 老年学 (医学書院)		期末試験 課題・レポート	90% 10%	

**保健医療福祉と
リハビリテーションの理念**

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション医学概論		作業療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	横倉 益弘
授業の概要				
リハビリテーション医学の概論ではあるが、リハビリテーションの歴史から代表的な疾病、そして関連職種の説明を通して、これから学ぶ基礎医学から臨床医学、そして理学療法・作業療法の専門の基礎的知識とする。				
授業終了時の到達目標				
リハビリテーション医学の概要を理解し、これから学ぶ臨床医学や専門分野に対する意識を高める。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 病院での実務経験を生かして学生に分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
事前に配布している授業資料を見て予習を行う。リフレクションシートを使って授業の復習をする。				
回	テーマ	内容		
1	リハビリテーション医学	・ガイダンス ・リハビリテーションとは ・ノーマライゼーションとは ・QOLとは		
2	リハビリテーションの理念	・リハビリテーションとは ・リハビリテーションの定義と目的		
3	病気と障害 医学的リハビリテーション	・リハビリテーションの各種定義 ・医学的リハビリテーションチームとは		
4	リハビリテーション医療1	・障害のモデルとは ・リハビリテーション医療とは		
5	リハビリテーション医療2 リハビリテーションチーム	・リハビリテーション医療とは ・リハビリテーション医療に従事する職種の特徴とは		
6	リハビリテーション治療学	・廃用、誤用、過用症候群について		
7	急性期リハビリテーション	・障害の複合性とは ・急性期リハビリテーション		
8	リハビリテーション診断学1	・評価とは		
9	リハビリテーション診断学2 リハビリテーション評価1	・リハビリテーション診断学における評価とは ・筋力検査法 ・ADLテスト ・画像診断学		
10	リハビリテーション評価2	・リハビリテーション診断学における筋力とは		
11	リハビリテーション医学の実際1	・地域リハビリテーションについて		
12	リハビリテーション医学の実際2	・脳血管障害のリハビリテーションについて		
13	リハビリテーション医学の実際3	・運動器疾患のリハビリテーション①について		
14	リハビリテーション医学の実際4	・運動器疾患のリハビリテーション②について		
15	まとめ	・リハビリテーション医学のまとめ ・定期試験範囲について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
学生のためのリハビリテーション医学概論 第3版 医歯薬出版 栢森 良二 著		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保健医療福祉連携論		作業療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	横倉 益弘
授業の概要				
・日本の社会保障制度、特にリハビリテーションに関係の深い保険(保健)制度、医療制度、福祉制度における概要と各々の問題点を諸外国と対比しながら理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
・日本の社会保障制度の背景を理解する。 ・リハビリテーションと各制度の関連性を理解する。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 病院での実務経験を生かして学生に分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
事前に配布している授業資料を見て予習を行う。リフレクションシートを使って授業の復習をする。				
回	テーマ	内容		
1	社会保障制度の概念を理解する(1)	・社会保障制度について ・日本国憲法25条について		
2	社会保障制度の概念を理解する(2)	・社会生活における安全網とは ・社会保障制度概要 ・ライフサイクルの変化		
3	社会保障制度と構造改革	・社会保障制度概要 ・高齢化の特徴 ・社会保障の構造改革 ・少子化対策		
4	医療体系(1)	・一次医療について ・二次医療について ・三次医療について		
5	医療体系(2)	・医療圏について ・特殊医療について (救急医療、難病対策、終末期医療)		
6	老人の医療と福祉	・老人保健法と老人福祉法について ・ゴールドプラン ・介護保険制度		
7	介護保険制度概要	・介護保険制度概要 ・地域包括ケアシステムについて		
8	医療法とその改正(1)	・医療法について ・わが国の医療制度の特徴について		
9	医療法とその改正(2)	・医療法とその改正について ・日本の医療制度について		
10	社会保障費と医療費	・社会保障費と医療費について		
11	社会保障費と医療財政 医療保険制度	・社会保障費と医療財政について ・医療保険制度について		
12	診療報酬支払い制度 医療提供体制	・診療報酬支払い制度について ・医療提供体制について		
13	介護保険制度(1)	・介護保険制度について		
14	介護保険制度(2)	・介護保険制度について		
15	社会保障制度まとめ	・まとめと定期試験について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・保健医療福祉制度論(ミネルヴァ書房) ・公衆衛生がみえる(メディックメディア)		期末試験	100%	社会情勢、特に政治、経済、保健、医療に関わる情報収集に努める。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域国際コミュニティ論		作業療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域における社会資源やコミュニティ活動の概要・必要性を学び、作業療法士がどのような役割を担い活躍できるか、理解を深める。 ・各国の作業療法士の状況、国際的に活躍する作業療法士について理解を深め、作業療法士の視野を広げる。 ・地域で活躍する外国人の文化に触れ、価値観の違いによる地域の暮らしやすさについて、理解を深める。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニティー活動について理解し、作業療法士の役割を考察できる。 ・グローバルな視野を持ち、多様な価値観を尊重し、支援できる作業療法士を目指す。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生がイメージしやすいような授業の展開を実施する。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・自身の居住地域のコミュニティ活動について必要な情報収集、参加を通して理解を深める。 ・国際的視野を持ち、価値観の違いについて理解するため、TVやWeb等の情報に注意を向ける。 				
回	テーマ	内容		
1	地域コミュニティの概要 1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とは ・コミュニティセンターとは ・地域における自助と互助の役割 		
2	地域コミュニティの概要 2	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域におけるコミュニティーセンターの活動 		
3	フィールド調査 1	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏域における利便性と社会資源 ※学内調査。実際の調査は後期の地域作業療法学で実施 		
4	フィールド調査 2	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめと発表 		
5	コミュニティーセンターの方から話を聞く 1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域におけるコミュニティーセンターの役割 ・取り組み事例 		
6	コミュニティーセンターの方から話を聞く 2	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り ・作業療法士が地域に貢献していくために 		
7	各国作業療法士の情勢	<ul style="list-style-type: none"> ・各国の作業療法の状況 		
8	国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・JICAで活躍する作業療法士 		
9	地域で活躍する外国人	<ul style="list-style-type: none"> ・香川県における現状(観光・留学・就労) ・やさしい日本語 		
10	留学生から話を聞く 1	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の文化を知る ※穴吹グループの留学生と面談のための準備 		
11	留学生から話を聞く 2	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く 		
12	留学生から話を聞く 3	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめと発表準備 		
13	留学生から話を聞く 4	<ul style="list-style-type: none"> ・発表 ・振り返り 		
14	地域防災	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における防災対策 ・作業療法協会・県士会による災害支援 		
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士としてできること ・定期試験に向けて 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験 レポート	80% 20%	レポートは2つ

基礎作業療法学

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法概論 I		作業療法学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	廣永 大祐
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法に対する理解を深める。 ・作業療法士に求められる役割を学ぶ。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の範囲について説明をすることができる。 ・作業療法士の役割、作業療法の流れ、業務について説明できる。 ・作業療法士に対する魅力が深まり、今後への動機づけとつなげていく。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年の勤務経験。 これまでの作業療法実践を活かし、作業療法についての魅力が深まるよう指導を行う。		
時間外に必要な学修				
次回の授業範囲について、教科書を読んで予習する。				
回	テーマ	内容		
1	作業とは①	1、作業と作業療法 3、作業療法の定義	2、生活を構成する作業活動	
2	作業とは②	4、課題 5、発表		
3	作業療法の領域①	1、作業療法の対象	2、作業療法の領域	
4	作業療法の領域②	3、作業療法の実践の流れ		4、作業療法の実施場所
5	障害体験①	1、片麻痺者を想定したADL・IADLの実施		
6	障害体験②	2、グループワーク		3、発表
7	作業療法の歴史・理論①	1、日本の歴史 2、世界の歴史		
8	作業療法の歴史・理論②	3、各国の状況		4、代表的な作業療法の理論について
9	作業療法の法と倫理	1、理学療法士および作業療法士法 2、日本作業療法士協会倫理綱領		
10	多職種連携によるチームアプローチ	1、専門職チームの意味と意義 2、チームのタイプと特徴 3、組織の連携		
11	作業療法の実践課程①	1、目的 2、実践課程 3、評価と問題点の抽出		
12	作業療法の実践課程②	4、ICFモデル 5、治療・指導・援助計画の立案・フォローアップ		
13	各領域における作業療法実践課程①	1、身体機能分野 2、精神機能分野		
14	各領域における作業療法実践課程②	3、発達過程分野 4、高齢期分野 グループワーク・講義		
15	まとめ	1、グループワーク振り返り 2、クリニカルリーズニング 3、作業療法の自己活用 4、試験に向けて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法学概論(医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法理論		作業療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
作業療法理論に基づいた評価や解釈の方法を学び、治療に結び付けていく				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法理論の理解を深め、目的に応じた評価をする事が出来る。 ・作業の重要性と作業療法の独自性を理解し、示していく事が出来る ・作業療法理論を実際に活用する事が出来る 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験あり。 これまでの作業療法実践を活かして、作業療法の理論に対する知識と技術を教授する。		
時間外に必要な学修				
授業内容の振り返りと課題実施。				
回	テーマ	内 容		
1	作業療法の歴史・作業療法の理論	1、作業療法の歴史 2、作業療法における理論 課題提示①		
2	作業科学 (OS) 1	1、作業科学の概要 1 課題提示②		
3	作業科学 (OS) 2	1、作業科学の概要 2		
4	作業科学 (OS) 3	1、作業科学の概要 3 2、事例紹介		
5	クライアント中心の作業療法 カナダモデル (CMOP-E) 1	1、クライアント中心の実践とは 2、理論の概要		
6	クライアント中心の作業療法 カナダモデル (CMOP-E) 2	3、COPMの枠組み 4、課題提示③		
7	クライアント中心の作業療法 カナダモデル (CMOP-E) 3	5、カナダ実践プロセスの枠組み 6、事例検討		
8	ADOC 作業介入プロセスモデル (OTIPM)	1、ADOCの概要 2、AMPSの概要		
9	作業介入プロセスモデル (OTIPM) 2	3、課題提示④、実習 4、発表と事例検討		
10	作業介入プロセスモデル (OTIPM) 3	5、作業介入プロセスモデル (OTIPM)		
11	人間作業モデル (MOHO) 1	1、MOHOの枠組み 2、課題提示⑤		
12	人間作業モデル (MOHO) 2	3、MOHOの代表的な評価法 4、課題提示⑥		
13	人間作業モデル (MOHO) 3	5、事例検討 1		
14	人間作業モデル (MOHO) 4	6、事例検討 2		
15	クライアント中心の実践とリーズニング	1、クライアント中心の実践 2、作業焦点と作業基盤 3、OTのキャッチフレーズ 課題提示⑦		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書) 作業療法がわかるCOPM・AMPS スターティングガイド 吉川ひろみ著 (医学 書院)、作業科学入門 (医歯薬出版) 他、 資料		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学		作業療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
作業に関する基礎理論と分析を学び、体験学習も加え指導方法を検討していく。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業遂行に関心をもち、身辺処理-生産活動-余暇を連続したながれで考えられるようになる ・作業療法の魅力が高まること 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
作業への関心をもつ。与えられた課題をこなす。				
回	テーマ	内 容		
1	作業・作業活動	基礎作業学とは 作業の意味・特徴・作業活動 作業の障がい		
2	障がいとは	作業の分類とOTのかかわりかた 健康と作業 脳と作業活動との関係		
3	道具と作業の関係	人が作業をすることの効果 作業療法の症例紹介		
4	作業活動に伴う効用	効用の理解		
5	作業分析 1	分析とは 実際の作業を用いながら行う		
6	作業分析 2	実際の作業を用いながら(身体運動技能・認知技能・心理社会的技能)		
7	作業分析 3	実際の作業を用いながら(身体運動技能・認知技能・心理社会的技能)		
8	作業分析 4	実際の作業を用いながら(身体運動技能・認知技能・心理社会的技能)		
9	作業分析 5	工程分析から動作分析 そして運動認知分析の流れ		
10	作業をどのようにもちいるか 1	作業をどのようにもちいるか 障がいとの関係		
11	作業をどのようにもちいるか 2	効果的な学習条件		
12	指導法 1	指導法		
13	指導法 2	伝え伝わり かかわりのコツ		
14	作業の治療的応用	作業科学 症例提示し作業訓練の紹介		
15	症例検討	重要点の復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・作業-その治療的応用(協同医書出版) ・ひとと作業(三輪書店) ほか 		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学実習 I		作業療法学科/2年	2021/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
作業活動の手順、道具の使用や管理方法など、実習を通して基本的な知識と技術を学ぶ。また分析を通して作業活動の使い方やその作業活動に必要な機能を確認し、治療手段として活用するときの指導方法を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
実習を通して、臨床場面に応用するための考察ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
作業分析レポートの書き方など文章能力の向上を各自予習として行う。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション、分析	前期講義の内容・レポート作成に関する説明		
2	タイルモザイク	タイルモザイクの予習、道具の説明		
3	タイルモザイク	作業活動実践		
4	タイルモザイク	作業活動実践		
5	タイルモザイク分析	包括的作業活動分析		
6	園芸活動	園芸療法の基礎		
7	園芸活動	作業活動実践		
8	園芸活動	作業活動実践		
9	園芸活動	作業活動実践		
10	陶芸活動	陶芸の説明、計画立案		
11	陶芸活動	作業活動実践		
12	陶芸活動	作業活動実践		
13	軽作業活動体験	作業活動実践		
14	軽作業活動分析・レポート作成	即時作業分析		
15	グループ活動実施	グループごとに手工芸を選択し、指導計画、事前準備、工程分析、指導を学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・作業療法学全書改訂第2版 第2巻 基礎作業学(協同医書出版) ・作業—その治療的応用 改訂第2版(協同医書出版)		課題・レポート	100%	授業は実技形式にて作業活動を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学実習Ⅱ		作業療法学科/2年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
革細工、木工作業の実技を通じて身体面・精神面・社会面・生活面の関係性を知り、他者に説明する事ができる。 作業療法の治療手段として、各作業の目的や特徴を理解して実施する事ができる。				
授業終了時の到達目標				
作業を通じて対象者に対する評価や分析を行うことができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして作業分析について指導する		
時間外に必要な学修				
作業分析についてまとめる。 作業ごとに作業分析と段階付け、リスク管理などをまとめてレポートして提出する				
回	テーマ	内容		
1	園芸作業	園芸に対する作業分析を行う		
2	木工作業 ①	鋸動作などの動作分析について考える		
3	木工作業 ②	釘打ち動作などの動作分析について考える		
4	革細工 ① 小銭入れ作成	革細工における皮・道具・工程の説明 カーヴェリング、モデリング、スタンピングの説明・実施		
5	革細工 ② 小銭入れ作成	裁断、デザイン転写、		
6	革細工 ③ 小銭入れ作成	コースター作成：スタンピング作業		
7	革細工 ④ 小銭入れ作成	小銭入れ作成：染色		
8	革細工 ⑤ 小銭入れ作成	小銭入れ作成：裏張り・仕上げ剤・穴あけ・金具付け		
9	革細工 ⑥ 小銭入れ作成	小銭入れ作成：レーシング		
10	革細工 ⑦ 小銭入れ作成	小銭入れ作成：作品作りと作業分析		
11	軽作業活動体験	季節ごとのカレンダー作成		
12	軽作業活動分析	季節ごとのカレンダー作成		
13	軽作業活動分析 軽作業レポート作成	軽作業活動における作業分析		
14	作業の提供 ①	自分で考えた作業を提供することで、手順や段階付けを理解する		
15	作業の提供 ② まとめ	自分で考えた作業を提供することで、手順や段階付けを理解する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布 作業療法学全書改訂第2版 第2巻 基礎作業学 (協同医書出版)		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法概論Ⅱ		作業療法学科/3年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志・谷渕 加奈子
授業の概要				
管理運営や関係法規、研究法について知識を習得し、臨床実習や臨床業務においてその知識が活用できるようにする。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・組織体制と作業療法部門との関係を把握し、関連する管理運営を整理できる。 ・研究の方法および構成について理解できる。 ・倫理について学び、自分自身との関係について考える機会をもつ。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		馬場 広志：作業療法士として5年以上の実務経験 病院での経験を活かし、報告書などの書類作成や医療、介護保険の知識を伝える。 谷渕 加奈子：作業療法士として5年以上の実務経験 病院や施設での経験、研究・学会発表等の経験を活かし、学生に教授する。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・予習：事前に関連する内容を、作業療法概論の教科書で確認しておく。 ・復習：配布資料、教科書を使用して振り返る。 				
回	テーマ	内容		
1	作業療法と組織、マネジメント	作業療法におけるマネジメント、目標管理と目標設定 病院組織の特徴と作業療法士の役割		
2	作業療法と業務管理	病棟・施設業務管理 院内活動		
3	作業療法と人・物・情報のマネジメント	教育システム、キャリア開発、環境整備と物品管理 診療記録、個人情報		
4	医療安全のマネジメント	リスクマネジメント、ヒューマンエラー 作業療法におけるリスクマネジメント		
5	作業療法士の役割と職域	理学療法および作業療法士法と定義、職域 医療保険制度(診療報酬)のしくみ		
6	作業療法を取り巻く諸制度 1	障害者総合支援法、精神保健福祉法		
7	作業療法を取り巻く諸制度 2	介護保険法、道路交通法(高齢者の自動車運転)		
8	作業療法士の職業倫理	公民の倫理、個人的倫理、医学・医療にみる倫理 作業療法の倫理綱領と課題		
9	作業療法の研究法 1	研究の目的、方法		
10	作業療法の研究法 2	文献検索 学会発表、事例		
11	作業療法の研究法 3	研究計画表作成 1		
12	作業療法の研究法 4	研究計画表作成 2		
13	作業療法の研究法 5	発表資料作成 2		
14	作業療法の研究法 6	発表1		
15	作業療法の研究法 7	発表2		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・プリント配布 ・作業療法概論 ・研究マニュアル 		期末試験 課題	90% 10%	

作業療法管理学

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法管理学 I		作業療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・PT・OT法を始め、作業療法業務に必要な診療報酬制度など、関係する法規について学ぶ。 ・業務遂行する上で、文書管理や物品管理および時間管理について学ぶ。 ・倫理について学ぶ。 				
授業終了時の到達目標				
上記の「授業の概要」に記した内容について他者に説明できるようにする。 定期試験6割以上の点数を取得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 病院や老人保健施設での作業療法経験を活かし、学生の指導を行う。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・見学実習を思い出し、実習先ではどのように物品や時間管理していたか振り返る。 ・配布資料を事前に読む。 				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション PT・OT法 1	授業概要の説明 PT・OT法の説明		
2	PT・OT法 2	PT・OT法の説明と国家試験過去問題を通して、そのポイントの学習		
3	社会保障制度について 1	全体像の説明 医療、年金、雇用等各種の制度の説明①		
4	社会保障制度について 2	医療、年金、雇用保険等各種制度の説明②		
5	診療報酬制度について 1	施設基準(訓練室の広さや物品、人員配置) 各種診療報酬①		
6	診療報酬制度について 2	各種診療報酬②		
7	記録と報告 1	記録の目的、種類、書き方 書き方の演習		
8	記録と報告 2	報告の実施時期と内容、報告書作成の説明と演習		
9	物品管理	物品の購入計画(予算立てや必要度など)・購入、管理 (帳簿、メンテナンス、処分)		
10	時間管理	週間プログラムの立案、担当決め、病棟や他部門との協力体制		
11	指導・監査	実地指導や監査における提出資料		
12	職業倫理 1	倫理とは、日本作業療法士協会の倫理綱領、職業倫理指針		
13	職業倫理 2	臨床研究に関する倫理指針		
14	まとめ 1	国家試験過去問題を解く		
15	まとめ 2	試験対策とともに今まで学んだ内容の確認		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法概論 I で使用するテキスト プリント配布		筆記試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法管理学Ⅱ		作業療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
教育法や研究法について知識を習得し、臨床実習や臨床業務において、その知識が活用できるようにする。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法教育に関する知識を学び、生涯学習、後輩育成に活かす。 ・研究の方法や手順に関する知識を学び、臨床における研究の手がかりや自己研鑽を深める。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		谷渕 加奈子：作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして作業分析について指導する		
時間外に必要な学修				
自分の興味のあるテーマについて、調べ学習を行う				
回	テーマ	内 容		
8	作業療法の研究法 1	研究の目的、方法 1		
9	作業療法の研究法 2	研究の目的、方法 2		
10	作業療法の研究法 3	研究の目的、方法 3 統計手法		
11	作業療法の研究法 4	文献検索と文献抄読 1		
12	作業療法の研究法 5	文献検索と文献抄読 2		
13	作業療法の研究法 6	文献発表 課題①		
14	作業療法の研究法 7	研究計画表作成 1 学会参加		
15	作業療法の研究法 8	研究計画表作成 2		
9	作業療法の研究法 9	発表資料作成 1		
10	作業療法の研究法 10	発表資料作成 2		
11	作業療法の研究法 11	発表 1		
12	作業療法の研究法 12	発表 2 課題② 振り返り		
13	教育法 1	OTにおける教育とは 1		
14	教育法 2	OTにおける教育とは 2 生涯学習		
15	教育法 3	自己研鑽と後輩育成 研修会の参加・主催		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法概論(医学書院) プリント配布		課題・レポート 定期試験	50% 50%	

作業療法評価学

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法評価学概論		作業療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
作業療法の中で行われる評価の目的や、流れの中で評価の位置づけを理解する。評価の手段である面接、観察と意識障害やバイタル測定の評価の概要を理解する。また、関節可動域測定の概念や目的を理解し、測定の実技を習得する。				
授業終了時の到達目標				
作業療法がどのような流れで行われているか理解し、作業療法評価の目的を説明できる。評価に必要な面接や観察の目的と意義を理解する。意識障害やバイタル測定、関節可動域訓練の概要を学び、正確に行える技術を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、臨床場面に必要な評価について指導する		
時間外に必要な学修				
予習として次回の範囲のテキストを読んでおく。 小テストを行うため前回の復習をしておく。確認の実技テストも行うので実技練習も取り組んでおく。				
回	テーマ	内容		
1	作業療法における評価とは	作業療法における評価の目的と意義		
2	作業療法評価における情報収集	評価に必要な情報収集の目的や意義、情報収集する内容を理解する		
3	作業療法評価における面接とは	面接を行う目的と面接の実技について		
4	作業療法評価における観察とは	観察を行う目的を理解する 日常生活動作を観察し、問題点を考察する		
5	意識障害の評価	意識障害の評価の目的と意義について		
6	バイタルの評価と測定①	バイタル測定を行う目的と意義		
7	関節可動域測定(ROM)の概要	関節可動域制限の定義と分類について 関節可動域制限の生じるメカニズムについて		
8	ROM測定の実技①	ROM測定における検査方法と注意点 肩関節のROM測定実技		
9	ROM測定の実技①	ROM測定における検査方法と注意点 肩関節のROM測定実技		
10	ROM測定の実技②	肩関節・肘関節のROM測定実技		
11	ROM測定の実技③	前腕・手関節・手指関節のROM測定実技		
12	ROM測定の実技④	股関節・膝関節・足関節のROM測定実技		
13	ROM測定の実技⑤	肩甲帯、体幹のROM測定実技		
14	ROM測定の実技⑥	ROM測定のまとめ		
15	面接・観察の再復習と記録について	評価に必要な面接、観察の再復習を行う 評価の記録について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第2版 (医学書院) 新・徒手筋力検査第10版 (協同医書出版)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動器作業療法評価学		作業療法学科/2年	2021/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
運動器の疾患にかかわる評価の目的や意義を学び、正確な評価実技を習得する。症例をとおして必要な評価が計画できるようことを目標にする。				
授業終了時の到達目標				
各種評価法の使用目的を理解し、対象者の関わりにおいて適切に選択できる。得られた結果と他の評価で得られた結果を統合・解釈することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、高次脳機能障害について指導する		
時間外に必要な学修				
次回の講義内容のテキストを確認しておく 実技の小テストを行うことで復習する				
回	テーマ	内 容		
1	筋力検査の目的とMMT①	筋力検査の概要とMMTにおける検査方法と注意点		
2	MMT②	肩関節周囲のMMT 実技		
3	MMT③	肘関節・前腕・手関節周囲のMMT実技		
4	MMT④	股関節・膝関節のMMT実技		
5	MMT⑤	足関節周囲、体幹のMMT実技		
6	MMT⑥	MMTの実技復習		
7	感覚検査①	感覚検査 表在感覚の評価		
8	感覚検査②	感覚検査 深部感覚 複合感覚の評価		
9	形態測定・姿勢調整	上肢、下肢の形態測定 姿勢調整に必要な評価を行う		
10	バランス検査	バランス能力のみかた		
11	上肢機能検査	STEF、MFTの評価		
12	痛みに関する評価	痛みに関する評価を学ぶ		
13	関節可動域測定	関節可動域測定の復習		
14	事例検討	事例を通して評価の計画を学ぶ		
15	まとめ	各評価の復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第2版 (医学書院) 新・徒手筋力検査第10版 (協同医書出版)		実技試験と期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経筋作業療法評価学		作業療法学科/2年	2021/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
中枢疾患や筋疾患に関与する評価の目的や意義を学び、正確な評価実技を習得する。また画像所見からも評価が行えるように基礎的な知識の定着を目標とする。高次脳機能障害に対する検査も学習する。				
授業終了時の到達目標				
各検査の目的・準備物・方法・記録の仕方、結果に対する解釈を説明することができ、正確な評価を行うことができる。画像からも評価が行えることを目標とする。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、評価の目的や技術について指導する		
時間外に必要な学修				
次回の講義範囲についてテキストを確認しておく 小テストを行うため実技練習も行っておく				
回	テーマ	内容		
1	中枢神経疾患や筋疾患の概要を学ぶ 画像の基礎知識について	中枢疾患や筋疾患などの概要を理解する。画像所見から評価ができるよう基礎的な知識を理解する。		
2	脳画像について	脳画像から考えられる症状を読み取り、評価へとつなげていく。		
3	片麻痺の回復段階	ブルンストローム法、上田の12グレード法		
4	腱反射、病的反射	概要と評価の説明および実技を習得する		
5	筋緊張検査	筋緊張のみかた 評価について		
6	脳神経検査	第1脳神経～第12脳神経の検査方法と記録及び結果の解釈について実技を通して学ぶ		
7	小脳機能検査	四肢の運動失調、測定異常など		
8	中枢疾患特有の評価	FMAなどの中枢疾患特有の評価について		
9	高次脳機能障害について(総論)	高次脳機能障害を脳解剖の視点で考える		
10	半側空間無視	概要と評価の説明および実技を習得する		
11	記憶障害	概要と評価の説明および実技を習得する		
12	注意障害	概要と評価の説明および実技を習得する		
13	遂行機能障害、失行など	概要と評価の説明および実技を習得する		
14	認知機能に関わる評価	概要と評価の説明および実技を習得する		
15	まとめ	各評価の復習と確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院) 高次脳機能障害のリハビリテーション(医学書院)		実技試験と期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法評価学演習 I		作業療法学科/2年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
評価実習に向けて必要な情報収集、評価計画、目標設定、治療プログラムについての理解を深める。模擬症例を通じて評価の流れと統合と解釈について理解する。客観的臨床能力試験(OSCE)を用いて臨床で必要な技術を習得する。				
授業終了時の到達目標				
評価から対象者の問題点を抽出し、目標設定と治療プログラムが立案できる。客観的臨床能力試験より臨床に必要な技術を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法の経験を活かして、評価について指導する。		
時間外に必要な学修				
配布したプリントを確認し、復習すること。実技試験に向けて実技練習をしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 問診の仕方	評価の流れについて 問診の注意点など実技		
2	情報収集について	情報収集のまとめ方と他部門からの情報収集 模擬症例の情報を整理する		
3	評価計画の立案について	評価計画の立案について 模擬症例の評価計画を立てる		
4	ICFの定義と分類について	ICFの定義を理解し、分類について学習する 模擬症例の問題点をICFに分類する		
5	目標設定について 治療プログラムについて	目標設定と治療プログラムの立案の考え方を学ぶ 模擬症例の目標設定と治療プログラムを立案する		
6	統合と解釈について	統合と解釈から考察の考え方を理解する 模擬症例の考察を考える		
7	評価の再復習 評価実技①	ADLの動作の観察を再復習する 評価実技の再復習を行う		
8	評価の再復習 評価実技②	評価実技の再復習を行う		
9	客観的臨床能力試験(OSCE) ①	OSCEの説明と課題設定		
10	客観的臨床能力試験(OSCE) ②	OSCEに向けての練習		
11	客観的臨床能力試験(OSCE) ③	OSCEに向けての練習		
12	客観的臨床能力試験(OSCE) ④	OSCEに向けての練習		
13	客観的臨床能力試験(OSCE) ⑤	OSCEに向けての練習		
14	客観的臨床能力試験(OSCE) ⑥	OSCEの実施		
15	客観的臨床能力試験とまとめ	OSCEの実施と評価実習に向けてのまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法評価学演習Ⅱ		作業療法学科/2年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
<p>評価実習後で評価について振り返る。 実習での症例をもとにケースレポートを作成する ケースレポートを発表し、症例に対する考え方を説明することで評価について理解を深める</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>評価実習で学んだことをレポートにまとめることで評価実習での関わりを振り返る。 症例を通して対象者の理解を深め、臨床実習へつなげていく。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<p>作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法の経験を活かして、評価や治療プログラムについて指導する。</p>		
時間外に必要な学修				
配布したプリントを確認し、復習すること。				
回	テーマ	内容		
1	評価実習の振り返り	評価実習で学んだことを振り返る		
2	評価レポート作成の流れ	評価レポートの作成の流れについて説明する		
3	情報収集について	症例に必要な情報を整理し、足りない情報について確認する		
4	評価計画の見直しと評価実技の再復習	評価の目的や意味を理解し、適切な選択を行う 実習でうまくできなかった評価について再確認を行う		
5	ICFの分類について	症例の問題点をICFに分類し、否定的側面と肯定的側面について理解を深める		
6	目標設定について	問題点より症例に対する目標を考えていく		
7	治療プログラムについて	治療プログラムについての考え方について理解する		
8	治療プログラムの立案	症例に対する治療プログラムを立案する		
9	治療プログラムの実施	実際に立案した治療プログラムを実施する		
10	考察について	症例に対する考察を考える		
11	レジメの作成	ケースレポートを発表用レジメにまとめる		
12	症例発表 ①	レジメに沿って発表を行っていく 他の学生の発表を聞き、質問や考えを議論する		
13	症例発表 ②	レジメに沿って発表を行っていく 他の学生の発表を聞き、質問や考えを議論する		
14	症例発表 ③	レジメに沿って発表を行っていく 他の学生の発表を聞き、質問や考えを議論する		
15	まとめと臨床実習に向けて	臨床実習に向けてまとめる		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		課題・レポート	100%	

作業療法治療学

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
中枢神経疾患作業療法学 I		作業療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
脳血管疾患に対する作業療法の基本的視点を説明し、臨床像を捉えて作業療法アプローチまでの一連の過程を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
脳血管疾患によって生じる症状の原因と臨床像を把握し、作業療法評価、アプローチについて他者に説明できることを目標とする。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの病院での経験を活かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・1年生で学んだ神経解剖学、神経生理学の復習をしておきましょう。 ・片麻痺の方がどのように生活しているかイメージしながら過ごす時間をとってみましょう。 				
回	テーマ	内容		
1	脳血管障害とは何か	脳血管障害の分類・鑑別、原因		
2	脳血管障害の主症状について	運動障害、感覚障害、嚥下障害、運動失調 高次脳機能障害など		
3	脳画像と主症状	主要な脳血管障害の症状とCT・MRI画像、脳の機能局在		
4	時期別の作業療法 急性期-回復期-生活期	急性期(早期リハ、リスク管理)、回復期(ADL向上、チームアプローチ、自宅復帰)、生活期(MTDLP、介護保険)		
5	脳血管障害の作業療法評価	身体機能、精神・高次脳機能、ADLの評価 Brs. stage、FMA		
6	脳血管障害の生活行為 1	ADL、IADLの特徴		
7	脳血管障害の生活行為 2	BRSごとのADL、動作分析		
8	脳血管障害の生活行為 3	BRSごとのADL、動作分析		
9	脳血管障害の生活行為 4	BRSごとのADL、動作分析		
10	脳血管障害の上肢機能に対するアプローチ	治療戦略について		
11	高次脳機能障害に対する作業療法1	注意障害、記憶障害の臨床像とアプローチ		
12	高次脳機能障害に対する作業療法2	左半側空間無視、失語症		
13	高次脳機能障害に対する作業療法3	失行症、失認の臨床像とアプローチ		
14	脳血管障害の統合と解釈	ICFやMTDLPに基づいた見方、目標設定 事例検討		
15	作業療法計画、アプローチ	目標に対する作業療法計画、アプローチについて考える 事例検討		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中(医歯薬出版) ・図解 作業療法技術ガイド(文光堂) ・配付資料 		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
中枢神経疾患作業療法学Ⅱ		作業療学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
難病、脊髄損傷その他の中枢性疾患に対する作業療法について学ぶ。また、ICFに基づき抽出した問題点解決に向けた治療、支援を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
難病、脊髄損傷などの疾患に対して、各疾患の臨床像を理解した上で、生活行為の向上に向けたプランを立案できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 リハ病院での作業療法経験を活かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習: 各疾患の基礎知識について、予め確認しておく。 ・ 復習: 配布資料を振り返り学習する。 				
回	テーマ	内 容		
1	脊髄損傷とは	脊髄の解剖と病態生理 脊髄損傷の症状と診断		
2	脊髄損傷の症状と合併症	脊髄損傷高位と機能との関係、病変部位と麻痺、排尿障害・排便障害、合併症(骨萎縮、尿路感染症など)		
3	脊髄損傷に対する作業療法評価	Frankel分類、ASIA機能障害尺度、Zancolli分類など		
4	脊髄損傷の生活行為	各髄節レベルにおいて獲得可能とされる生活行為について		
5	脊髄損傷に対する作業療法プログラム	作業療法の基本的視点と介入のポイント		
6	中心性頸髄損傷に対する作業療法1	不全麻痺と脊髄下行路・上行路 中心性頸髄損傷の臨床像		
7	中心性頸髄損傷に対する作業療法2	作業療法評価、プログラムについて		
8	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法1	病態・診断・病型・予後・合併症について ALSに対する作業療法評価、プログラム		
9	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法2	ICT機器、環境制御装置について 透明文字盤体験と意思伝達について		
10	脊髄小脳変性症に対する作業療法	主症状・重症度分類・作業療法評価・プログラムについて		
11	ギランバレー症候群・多発性筋炎に対する作業療法	主症状・作業療法評価・プログラムについて		
12	多発性硬化症に対する作業療法1	病理・発生メカニズム・作業療法評価について		
13	多発性硬化症に対する作業療法2	作業療法プログラムについて		
14	パーキンソン病に対する作業療法1	病態・診断、臨床像について		
15	パーキンソン病に対する作業療法2	作業療法評価、プログラムについて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法技術ガイドブック(文光堂)		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動器疾患作業療法学 I		作業療学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
ハンドセラピーに関する知識、各疾患に対する治療法・予後管理法などについての基本的知識を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドセラピーを臨床で実践できるために必要な基礎知識を理解する ・疾患について病態像を把握し、作業療法治療に適切に結びつけることができる 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
授業内容の振り返りを行う				
回	テーマ	内容		
1	ハンドセラピー	ハンドセラピー概論 手の働きと知覚との関係		
2	ハンドセラピー	ハンドセラピー評価の各方法とその解釈の仕方		
3	ハンドセラピー	ハンドセラピープログラム		
4	末梢神経損傷	末梢神経概論		
5	末梢神経損傷	末梢神経の評価		
6	末梢神経損傷	末梢神経損傷の作業療法		
7	絞扼性神経障害	絞扼性神経障害に関する知識・評価・治療		
8	関節リウマチ	診断学・病態		
9	関節リウマチ	作業療法		
10	関節リウマチ	日常生活活動支援		
11	熱傷	熱傷の特徴		
12	熱傷	熱傷の問題点 評価		
13	熱傷	各時期のプログラム		
14	腱板損傷	腱板損傷の特徴 腱板損傷に対するリハビリテーション		
15	まとめ	理解度チェック		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法技術ガイド(文光堂) ・ベッドサイドの神経の診かた(南山堂) ・ハンドセラピーシリーズ ほか 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動器疾患作業療法学Ⅱ		作業療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
解剖学、生理学的メカニズムなどの基本的知識を解説し、作業療法介入を学習。また作業療法がもつ独自の治療・訓練支援の特徴を理解する。				
授業終了時の到達目標				
各疾患に対する治療の実際について習得し、作業療法士としてのかかわりを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士としての5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・予習: 各疾患の基礎知識について、予め確認しておく。 ・復習: 配布資料を振り返り学習する。 				
回	テーマ	内 容		
1	腕神経叢損傷	腕神経叢の解剖、特徴 術式		
2	腕神経叢損傷	腕神経叢損傷の医療的治療と作業療法評価・療法		
3	腕神経叢損傷	機能再建術後の作業療法介入の進め方		
4	腱損傷	腱の基本的構造 腱の修復過程		
5	腱損傷	屈筋腱損傷の特徴 治癒過程と療法の流れ		
6	腱損傷	屈筋腱修復後のセラピー(事例検討)		
7	腱損傷	伸筋腱の特徴 伸筋腱に対するプロトコール		
8	関節症	母指CM関節症 変形性肘関節症		
9	疼痛に対する作業療法アプローチ	CRPS		
10	疼痛に対する作業療法アプローチ	介入方法		
11	骨折	骨折の基礎知識 人体解剖		
12	骨折	各骨折の復習 レントゲン交え症例紹介		
13	骨折	ロッキングプレート 評価の抽出と一般的な作業療法のながれと注意点		
14	骨折	症例紹介		
15	画像の診方 まとめ	画像の診方 まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法技術ガイド(文光堂) ・ハンドセラピー ほか 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内部疾患作業療法学		作業療学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
生活習慣との関連性が高く、対象者人口も多い心疾患や呼吸器疾患および糖尿病などの代謝疾患対象者に対する生活指導を含めた作業療法について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 各内部疾患の症状や生活習慣との関連性について説明できる。 対象者の生活機能向上を目指したプログラムの立案ができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
授業内容の振り返りを行う				
回	テーマ	内容		
1	授業概要の説明 内部障害総論	授業概要の説明 代表的な内部障害者の症状、高齢者と重複障害		
2	呼吸器疾患の解剖と生理 検査データと治療	呼吸生理、呼吸器系の解剖 呼吸機能検査、動脈血ガス検査、薬物療法ほか		
3	呼吸器疾患のPT評価とプログラム	フィジカルアセスメント、運動耐容能、胸部画像診断 包括的呼吸リハビリテーション		
4	呼吸器疾患のOT評価とプログラム 排痰ドレナージと喀痰吸引	ADL評価、認知機能、ADLの実際 体位排痰法、喀痰の吸引		
5	循環器疾患の解剖と生理 検査データ、治療	心臓の構造と機能 心電図、生化学検査、薬物療法、心臓カテーテル治療		
6	循環器疾患のPT評価とプログラム	運動機能評価、心理・認知機能 時期ごとゴール設定と理学療法		
7	循環器疾患のOT評価とプログラム	ADL評価、ADL指導		
8	代謝障害の解剖と生理 糖尿病の検査データと治療	膵臓、腎臓の構造と機能 糖尿病の診断に用いられる検査、薬物療法		
9	糖尿病のPT評価とプログラム	運動の効果と運動療法の実際		
10	糖尿病のOT評価とプログラム	ADL指導、生活習慣と行動変容		
11	腎不全の検査データと治療 PT評価とプログラム	CKDとは、尿検査、血液検査、腎機能検査 身体機能評価、ADL評価、運動療法の効果		
12	がんについて、検査データと治療	がんとは、病期と病型の判定 外科的治療、化学療法、放射線治療		
13	がんのPT評価とプログラム	がんのPT評価とプログラム		
14	がんのOT評価とプログラム	乳がん・頭頸部がんなどの作業療法		
15	まとめ	理解度チェック		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		期末試験(筆記試験)	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達障害作業療法学 I		作業療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
発達障害の作業療法を学ぶ基礎として、まず小児の正常発達について学び、脳性麻痺の臨床像、作業療法を学習する。				
授業終了時の到達目標				
正常発達と反射の関連について理解できる。 脳性麻痺の臨床像と作業療法について理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験。 病院での作業療法士としての経験を活かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
・予習：教科書の該当する項目を読みましょう。 ・復習：配布資料をもとに振り返りましょう。				
回	テーマ	内容		
1	発達障害に対する作業療法の概要	正常運動発達を学ぶことの意義 知的・認知・精神機能の障害についての概要		
2	姿勢・運動の障害を中心とする発達障害の概要	脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎など		
3	正常運動発達と反射 (階層性発達理論)	新生児期・乳児期に見られる反射の意義と見方		
4	原始反射・姿勢反射 1	神経の発達よりみた反射の発達 脊髄レベルについて		
5	原始反射・姿勢反射 2	神経の発達よりみた反射の発達 脳幹レベルについて		
6	原始反射・姿勢反射 3	神経の発達よりみた反射の発達 中脳レベル、大脳皮質レベルについて		
7	原始反射・姿勢反射 4	神経の発達よりみた反射の発達を国家試験問題を通して学ぶ。		
8	正常運動発達	腹臥位、背臥位、座位、立位の発達について		
9	発達課題	遊び・ADLの発達 遠城寺式乳幼児発達検査、DENVER II		
10	発達評価	発達領域における各種検査測定について		
11	脳性麻痺の作業療法 1	脳性麻痺の臨床像(CPの定義・原因・症状の推移、病形分類、障害分類)、合併症、医学的治療について		
12	脳性麻痺の作業療法 2	痙直型脳性麻痺の特徴と作業療法評価		
13	脳性麻痺の作業療法 3	痙直型脳性麻痺の作業療法プログラム		
14	脳性麻痺の作業療法 4	アテトーゼ型脳性麻痺の特徴と作業療法評価		
15	脳性麻痺の作業療法 5	アテトーゼ型脳性麻痺の作業療法プログラム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる発達障害の作業療法(医歯薬出版)		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達障害作業療法学Ⅱ		作業療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害作業療法学Ⅰで学んだ正常発達を基盤とし、疾患別の心身機能・構造をとらえ、評価及びアプローチを理解する。 ・発達障害の各疾患を身体的・社会的・発達の側面から捉え、問題点を評価し、治療計画及び治療手段を学習する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の作業療法の役割を解説できる。 ・正常発達に関する知識の治療への応用について説明できる。 ・以下にあげる疾患の臨床像を捉え、評価及びアプローチを理解できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を活かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・予習：事前に教科書に目を通しておく ・復習：配布資料を基に振り返りを行う 				
回	テーマ	内容		
1	脳性麻痺 重症心身障害児 1	脳性麻痺と重症心身障害児(者)の関連について		
2	重症心身障害児 2	重症心身障害児(者)の特徴と作業療法評価、プログラム		
3	筋ジストロフィー 1	筋ジストロフィーとは何か?(障害の原因) 筋ジストロフィーの臨床像(分類と特徴)		
4	筋ジストロフィー 2	筋ジストロフィーに対する作業療法評価 重症度分類		
5	筋ジストロフィー 3	筋ジストロフィーに対する作業療法プログラム 代償運動の捉え方		
6	知的障害、ダウン症 1	知的障害、ダウン症の特徴と作業療法評価		
7	知的障害、ダウン症 2	知的障害、ダウン症の作業療法プログラム		
8	二分脊椎、分娩麻痺	二分脊椎、分娩麻痺の特徴と作業療法		
9	発達障害(狭義)の総論	自閉スペクトラム症、注意欠陥/多動症、学習症、発達性協調運動症の概要		
10	自閉スペクトラム症 (ASD)	自閉スペクトラム症の特徴と作業療法		
11	注意欠陥/多動症 (AD/HD)	注意欠陥/多動症の特徴と作業療法		
12	学習症 (LD)	学習症の特徴と作業療法		
13	発達性協調運動症 (DCD)	発達性協調運動症の特徴と作業療法		
14	発達障害(狭義)のアプローチ	ASD、AD/HD、LD、DCDのアプローチの実践		
15	まとめ	各疾患ごとのまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・イラストでわかる発達障害の作業療法 (医歯薬出版株式会社)		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神障害作業療法学概論		作業療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	前田 悠志
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害のリハビリテーションの流れを理解する。 ・精神障害作業療法の構造と形態を学び、作業療法の目的と役割を理解する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健領域において作業療法の目的と手段、方法を説明できる。 ・精神保健領域において各職種の役割を理解し協業する方法を述べる事ができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
予習復習に努めること。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 精神科医療状況概論	授業概要の説明、精神障害作業療法の概要		
2	精神科医療状況概論	精神科医療を取り巻く状況、携わる他職種の理解		
3	精神科領域での基礎理論 1	わが国の精神科医療と精神障害作業療法の歴史		
4	精神科領域での基礎理論 2	障害論(I C F)、精神障害リハビリテーションの理解		
5	精神科領域での基礎理論 3	精神障害作業療法での生活行為とは		
6	精神科領域での基礎理論 4	ライフサイクルや発達段階からの障害を捉える		
7	精神科領域での基礎理論 5	精神疾患とその症状、身体図式		
8	精神障害作業療法の基礎 1	精神障害作業療法の目的		
9	精神障害作業療法の基礎 2	精神障害作業療法で用いる作業活動(構成的作業)		
10	精神障害作業療法の基礎 3	精神障害作業療法で用いる作業活動(投影的作業)		
11	精神障害作業療法の基礎 4	精神障害作業療法で用いる集団(集団の種類やかたち等)		
12	精神障害作業療法の基礎 5	精神障害作業療法で用いる集団(個人と集団の関係、集団の成熟等)		
13	精神障害作業療法の役割(医療)	精神科領域の作業療法士が活躍するフィールド(精神科作業療法、外来作業療法等)		
14	精神障害作業療法の役割(介護・障害福祉)	精神科領域の作業療法士が活躍するフィールド(訪問、就労支援等)		
15	精神障害作業療法概論のまとめ	講義の振り返り、学生からの質問への回答		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
精神障害と作業療法 新版 (三輪書店)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神障害作業療法学 I		作業療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	前田 悠志
授業の概要				
精神障害作業療法の評価、治療・援助の基本を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
精神障害に対する作業療法の治療・援助について理解し、臨床で使える技能を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
テキストを読んで、授業で説明した内容の振り返りを行う。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	授業概要の説明 精神障害作業療法の概要		
2	「病いと生きる」理解	疾患と症状、障害の捉え方(身体障害との違い)		
3	精神障害作業療法評価の基礎 1	精神障害作業療法の治療構造		
4	精神障害作業療法評価の基礎 2	対象関係論		
5	精神障害作業療法評価の基礎 3	作業療法の構成要素(作業活動)治療的意味の理解		
6	精神障害作業療法評価の基礎 4	作業療法の構成要素(集団)治療的意味の理解		
7	精神障害作業療法評価の基礎 5	援助者の態度、関わり方、治療的利用		
8	精神障害作業療法評価 1	トップダウンアプローチとボトムアップアプローチ		
9	精神障害作業療法評価 2	精神障害作業療法における評価とは、評価から治療までの流れ		
10	精神障害作業療法評価 3	目標設定、治療援助計画、段階づけ		
11	精神障害作業療法評価 4	情報収集、面接、観察		
12	精神障害作業療法評価 5	精神機能検査、生活機能検査		
13	精神障害作業療法評価演習 1	評価の演習		
14	精神障害作業療法評価演習 2	演習の発表、意見交換		
15	精神障害作業療法 I のまとめ	講義の振り返り、学生からの質問への回答		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
精神障害と作業療法 新版 (三輪書店)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神障害作業療法学Ⅱ		作業療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
国家試験過去問題の事例を取り上げてグループ内で検討し、精神障害作業療法の対象者への作業療法サービス内容と基本的対応を身につける。				
授業終了時の到達目標				
各疾患について、その回復過程に応じた作業療法について説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
テキストと配布プリントを読んで、予習復習に努めること。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	授業概要の説明 グループ分けと役割分担の確認、事例の読み合わせ		
2	事例検討(統合失調症) 1	統合失調症/評価・評価実技		
3	事例検討(統合失調症) 2	統合失調症/課題抽出、計画立案		
4	事例検討(統合失調症) 3	統合失調症/治療のデモ確認		
5	事例検討(統合失調症) 4	治療内容の紹介 1		
6	事例検討(統合失調症) 5	治療内容の紹介 2		
7	事例検討/気分障害 1	気分障害/評価・評価実技		
8	事例検討/気分障害 2	気分障害/課題抽出、計画立案		
9	事例検討/気分障害 3	治療内容の紹介 1		
10	事例検討/気分障害 4	治療内容の紹介 2		
11	事例検討/その他の疾患 1	パーソナリティ障害、摂食障害、てんかん、などの評価		
12	事例検討/その他の疾患 2	パーソナリティ障害、摂食障害、てんかん、などの課題抽出と計画書立案		
13	事例検討/その他の疾患 3	治療内容の紹介 1		
14	事例検討/その他の疾患 4	治療内容の紹介 2		
15	総まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		期末試験(筆記試験)	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高齢期作業療法学		作業療学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
高齢者は老化現象によって様々な機能が変化していきます。しかしながら、障害を持っていても元気で有意義に暮らしている高齢者もたくさんいます。ここでは高齢者の特徴や環境、高齢障害者に対する作業療法を考えていきます。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の特徴を理解できる ・高齢者の取り巻く環境や制度を理解できる ・高齢期疾患における作業療法を理解できる 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの高齢期領域の作業療法実践を活かして授業を進めていく。			
時間外に必要な学修				
該当範囲の教科書や資料の確認と、老年学を復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	高齢社会について	前期のふりかえり、高齢者の動向		
2	高齢者の社会福祉制度	1、高齢者福祉制度の始まり・流れ 2、高齢期の作業療法		
3	病期・場所に応じた治療・援助内容の違い	1、急性期～終末期 2、一般病院～在宅		
4	高齢者の作業	高齢者を取り巻く作業 事例検討		
5	大腿骨近位部骨折	疾患の特徴と作業療法		
6	認知症のある人の作業療法 1	1、認知症の分類・症状の復習 2、認知症のある人の評価 1		
7	認知症のある人の作業療法 2	2、認知症のある人の評価 2		
8	認知症のある人の作業療法 3	3、認知症のある人の作業療法 1		
9	認知症のある人の作業療法 4	3、認知症のある人の作業療法 2		
10	認知症のある人の作業療法 5	4、事例検討 1		
11	認知症のある人の作業療法 6	5、事例検討 2		
12	認知症のある人の作業療法 7	6、集団作業療法の実際		
13	高齢期における終末期	1、終末期の作業療法 2、事例		
14	高齢者に関連するトピックス	1、高齢期に特有な交通事情(高齢者運転、交通事故) 2、触法高齢者と高齢者に特有な犯罪被害		
15	まとめ	ふりかえりと、今後の展望		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学(医学書院)ほか		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活行為学 I		作業療法学科/1年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 生活行為に関係する人-作業-環境の理解を深める 生活行為に求められる評価を評価学と関連付けて学んでいく 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 生活行為における動きの特徴やバリエーションを理解する 生活行為における対象者を観察する視点を理解する 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験。 これまでの作業療法経験を活かし、生活行為に求められる要素について基本的な考え方を身につけられるよう指導する。			
時間外に必要な学修				
該当範囲の予習復習。自身の生活行為に注意を向け、他者との違いを考察する				
回	テーマ	内容		
1	生活行為について	ADLの分類・概念		
2	ADLを構成する基本動作 1	姿勢(臥位・座位・立位)と環境、観察の視点		
3	ADLを構成する基本動作 2	寝返り～起き上がりと環境、観察の視点		
4	ADLを構成する基本動作 3	起立・着座と環境		
5	ADL 1	食事の工程と観察		
6	ADL 2	整容の工程と観察		
7	ADL 3	更衣の工程と観察		
8	ADL 4	排泄の工程と観察		
9	ADL 5	入浴の工程と観察		
10	IADL 1	IADLとは 洗濯、掃除、整理整頓		
11	IADL 2	調理、買い物、経済管理、外出		
12	IADL 3	調理、買い物、経済管理、外出		
13	余暇活動	余暇活動に関連する作業、評価 QOLとは		
14	睡眠と生活習慣	睡眠 生活習慣の特徴、評価、作業バランス		
15	各領域におけるADLの特徴	COPM		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法学ゴールドマスターテキストADL(メジカルビュー)、他		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活行為学Ⅱ		作業療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 生活行為の視点を基にした観察力を養い、記載できることを目指す 評価法の目的・方法を学び、実習で使用できるようにする 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 生活行為学Ⅰで学んだ視点を生かして観察・考察ができる 各種評価法の特徴を理解し、使用できる 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験。 これまでの作業療法経験を活かし、生活行為に求められる要素について基本的な考え方を身につけられるよう指導する。			
時間外に必要な学修				
他の教科で学んだ疾患の知識を評価の視点と関連付ける				
回	テーマ	内容		
1	ADLを構成する基本動作の観察1	姿勢の観察・記録		
2	ADLを構成する基本動作の観察2	寝返り～起き上がりの観察・記録		
3	ADLを構成する基本動作の観察3	起立・着座の観察・記録		
4	ADLの観察1	食事の観察・記録		
5	ADLの観察2	整容の観察・記録		
6	ADLの観察3	更衣の観察・記録		
7	ADLの観察4	排泄の観察・記録		
8	ADLの観察5	入浴の観察・記録		
9	ADL評価法1	BIとFIM		
10	ADL評価法2	AMPS		
11	ADL評価法3	COPM		
12	ADL評価法4	QOLの評価		
13	IADLの観察・評価1	調理活動計画		
14	IADLの観察・評価2	片麻痺を想定した調理活動実施・評価		
15	介助法	動作支援の基本と方法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法学ゴールドマスターテキストADL(メジカルビュー)、COPM・AMPSスターティングガイド(医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活行為向上マネジメント学		作業療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷渕 加奈子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・MTDLPを用いた作業療法の考え方を身につける ・MTDLPの各シートの使用方法を理解し、記入できる ・事例を通し、理解を深める 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・MTDLPを用いて対象者の活動や参加に焦点を当てる評価及びアプローチについて身につける ・地域でOTがその専門特性を生かして、どのように活躍できるか事例を通じてイメージできる 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験。 これまでの作業療法経験を活かし、生活行為に求められる要素について基本的な考え方を身につけられるよう指導する。			
時間外に必要な学修				
生活行為学Ⅰ・Ⅱで学んだADL・IADL評価の視点の復習やICFの復習などを通して、評価に必要な視点を抑えておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	生活行為向上マネジメントとは (MTDLP) 1	MTDLPの特徴		
2	生活行為向上マネジメントとは (MTDLP) 2	MTDLPの評価の流れ		
3	面接法	MTDLPを用いた面接の技法		
4	アセスメントシートの作成	アセスメントシートの作成方法		
5	目標・プラン設定 1	合意目標とPDCAサイクル		
6	目標・プラン設定 2	プラン作成の考え方と方法		
7	事例検討 1	各領域における実践事例の紹介 1		
8	事例検討 2	各領域における実践事例の紹介 2		
9	事例検討 3	各領域における実践事例の紹介 3		
10	事例検討 4	模擬事例の事例検討 1		
11	事例検討 5	模擬事例の事例検討 2		
12	事例検討 6	発表		
13	事例検討 7	MTDLPの実践		
14	事例検討 8	発表と振り返り		
15	まとめ	MTDLPを実習や臨床で活用するために		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
事例で学ぶ生活行為向上マネジメントシート (医歯薬出版)		レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
義肢学		作業療法学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
切断者とその家族が、安心かつ安全な日常生活が送れるように支援するための知識や技術を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・切断についての基本的知識、治療方法、作業療法について理解する ・義肢における作業療法の役割について理解する 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
授業内容を振り返りポイントを復習する。				
回	テーマ	内 容		
1	切断	切断者の現状 切断部位の選択 切断原因疾患を知り予後学ぶ		
2	切断	切断術 疼痛の特徴と評価		
3	切断	切断者のリハビリテーション 断端訓練と日常生活指導		
4	下肢切断	下肢切断の現状と療法		
5	義足	臨床場面でよくみる義足の種類 アライメントなど必要な知識の学習		
6	義足	臨床場面でよくみる義足の種類 アライメントなど必要な知識の学習		
7	義手	義手の支給制度 義手の構造・部品		
8	前腕義手	前腕義手の特徴		
9	前腕義手	チェックアウト 事例紹介		
10	上腕義手	上腕義手の特徴 チェックアウト		
11	上腕義手	事例紹介 肩・肘・手義手の特徴		
12	義手訓練	義手装着訓練		
13	電動義手	筋電義手の特徴と訓練		
14	電動義手	筋電義手の訓練方法		
15	まとめ	O Tに必要な義手知識		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・義肢学(医歯薬出版株式会社) ・義肢装具のチェックポイント(医学書院)ほか 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
装具学実習		作業療法学科/2年	2021/後期	講義・実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
適応疾患の知識を含め、装具の種類・装具療法を理解した上で、作成に必要な基礎知識を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
適切な装具の選択ができ、スプリント作製により、手順・チェックアウト・訓練の実際を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
疾患の復習をしておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	装具学概論	装具の定義・歴史・目的・分類・制度		
2	装具概論	解剖学の復習		
3	スプリントの基礎知識	装具に必用な基礎知識		
4	上肢装具	上肢装具総論		
5	上肢装具	指装具の適応と機構		
6	上肢装具	装具作成(バディー セーフティーピン 8の字他)		
7	上肢装具	手部指装具の適応と機構 事例紹介		
8	上肢装具	装具作成(RA)		
9	上肢装具	手関節装具の適応と機構 事例紹介		
10	上肢装具	装具作成(掌側・背側用)		
11	上肢装具	対立装具の適応と機構 事例紹介		
12	上肢装具	装具作成(短対立装具)		
13	上肢装具	把持装具 症例紹介		
14	上肢装具	装具作成(手関節駆動式)		

回	テーマ	内 容		
15	上肢装具	肩肘装具		
16	上肢装具	肩関節・肘関節疾患		
17	下肢装具	下肢切断		
18	下肢装具	下肢装具の特徴		
19	下肢装具	CVAにおける装具療法		
20	下肢装具	CVAにおける装具療法		
21	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（骨折・熱傷）		
22	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（腱損傷・CVA）		
23	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（RA・末梢神経損傷）		
24	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（脊髄損傷）		
25	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（肩障害）		
26	スプリント作成	作成上の知識の確認		
27	スプリント作成実習	症状にあわせた装具作成		
28	スプリント作成実習	症状にあわせた装具作成		
29	OTの役割	OTの役割		
30	まとめ	事例検討		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・装具学（医歯薬出版） ・ハンドセラピー（メディカルプレス） ・装具作業療法入門（医歯薬出版） ・ハンドセラピー入門（三輪書店） ・各ジャーナル 		期末試験 実習・実技評価	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動作分析セミナーⅡ		作業療法学科/3年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
食事動作や調理動作など各種生活行為を観察して分析を行う。 上記生活行為が困難な事例に対する動作指導や環境調整によりその獲得のプランを立案する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・動作を観察する視点を養い、疾患の特性による分析が行えること。 ・分析した結果を元に、目標・プログラム設定ができること。 ・動作分析に基づいた指導法を実施することができること。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
自身や家族や友人の動きを観察し、それぞれの動きの特徴を知る。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 動作分析セミナーⅠの振り返り	授業概要の説明 動作分析セミナーⅠで学んだこと、学ぶべきポイント		
2	食事動作の観察と分析1	教員からの説明:スプーン操作と箸操作		
3	食事動作の観察と分析2	グループワーク:片麻痺者対象者のスプーン操作と箸操作 に対するアプローチの検討		
4	食事動作の観察と分析3	各グループの発表		
5	更衣動作の観察と分析1	教員からの説明:上衣の着脱と下衣の上げ下げ		
6	更衣動作の観察と分析2	グループワーク:片麻痺者対象者の上衣の着脱と下衣の上 げ下げに対するアプローチの検討		
7	更衣動作の観察と分析3	各グループの発表		
8	調理動作の観察と分析1	教員からの説明:調理動作(野菜のカットとフライパンで の炒め作業)		
9	調理動作の観察と分析2	グループワーク:片麻痺者対象者の野菜のカットと炒め作 業に対するアプローチの検討		
10	調理動作の観察と分析3	各グループの発表		
11	洗濯物干し動作の観察と分析1	教員からの説明:洗濯物干し動作		
12	洗濯物干し動作の観察と分析2	グループワーク:洗濯物干し動作に困難さを生じる事例に 対するアプローチの検討		
13	洗濯物干し動作の観察と分析3	各グループの発表		
14	自由課題1	グループで興味関心ある動作に着目し分析を行う。		
15	自由課題2	発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ペーパーペイシエントセミナー		作業療法学科/3年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	1単位(60時間)	必須	馬場 広志、大川 麻美 谷淵 加奈子、精神領域外部講師
授業の概要				
作業療法で関わる各領域において、得られた情報から作業療法の目標・プログラムを作成し、実施する。				
授業終了時の到達目標				
各領域において得られた情報の統合を行い、目標・プログラムを作成し、実施する事が出来る。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	馬場 広志：作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を用いて、目標とプログラム作成について指導する。 大川 麻美：作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を用いて、目標とプログラム作成について指導する。 谷淵 加奈子：作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を用いて、目標とプログラム作成について指導する。 外部講師：作業療法士として5年以上の実務経験 精神科病院での作業療法経験をj用いて、指導する。			
時間外に必要な学修				
・予習：各領域における疾患の特徴を確認しておく ・復習：学んだり気づいたことを振り返る				
回	テーマ	内容		
1	精神領域の作業療法	事例検討		
2	精神領域の作業療法	事例検討		
3	精神領域の作業療法	事例検討		
4	精神領域の作業療法	事例検討		
5	精神領域の作業療法	事例検討		
6	精神領域の作業療法	事例検討		
7	精神領域の作業療法	事例検討		
8	課題提示 事例検討会	授業課題、進行計画 事例報告に基づき事例検討会		
9	事例検討 1(中枢神経疾患)	模擬事例の基本情報 評価項目、方法		
10	事例検討 2	評価結果のまとめ		
11	事例検討 3	全体像を捉える、ICF		
12	事例報告書の作成 1	事例をレジюмеにまとめる問題点抽出、作業療法計画(目標、プログラム)、考察		

回	テーマ	内 容		
13	事例報告書の作成 2	事例をレジюмеにまとめる、問題点抽出、作業療法計画（目標、プログラム）、考察		
14	事例報告書の発表 1	事例発表し、ディスカッションを行う		
15	事例報告書の発表 2	事例発表し、ディスカッションを行う		
16	事例報告書の発表 3	事例発表し、ディスカッションを行う		
17	作業療法プログラム立案 1	作業療法プログラムを立案し、治療道具の作成を行う 治療計画書の作成		
18	作業療法プログラム立案 2	作業療法プログラムを立案し、治療道具の作成を行う プログラムの発表準備		
19	作業療法プログラムの実施 1	模擬患者に作業療法プログラムを実施（発表）する		
20	作業療法プログラムの実施 2	模擬患者に作業療法プログラムを実施（発表）する		
21	作業療法プログラムの実施 3	模擬患者に作業療法プログラムを実施（発表）する		
22	振り返り、まとめ	模擬事例の振り返り		
23	事例検討 1（運動器疾患）	模擬事例の基本情報 評価項目、方法		
24	事例検討 2	評価結果のまとめ		
25	事例検討 3	全体像を捉える、ICF		
26	事例報告書の作成 1	事例をレジюмеにまとめる、問題点抽出、作業療法計画（目標、プログラム）、考察		
27	事例報告書の発表 1	事例発表し、ディスカッションを行う		
28	事例報告書の発表 2	事例発表し、ディスカッションを行う		
29	事例報告書の発表 3	事例発表し、ディスカッションを行う		
30	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		期末試験	100%	

地域作業療法学

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
住環境整備論		作業療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	廣永 大祐
授業の概要				
・ 障害者・高齢者を取りまく住環境について、現状の問題点を抽出するための知識、技術を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
・ 障害者・高齢者を取り巻く住環境について現状の問題点を抽出し、そこから今後の課題について考察できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生がイメージしやすいような授業の展開を実施する。		
時間外に必要な学修				
フィールド調査を行うための計画、実習、フィードバックを中心に授業を展開する [事前準備]住環境について、授業全体を通し事前に予習を行う				
回	テーマ		内容	
1	・ 総論 ・ バリアフリーとユニバーサルデザイン		・ バリアフリーとユニバーサルデザインについて	
2	・ 障害者総合支援法 ・ 社会保障制度		・ ハートビル法・交通バリアフリー法・バリアフリー新法 ・ 障害者総合支援法 ・ 社会保障制度	
3	住環境について (在宅、施設での生活場面) 1	1	・ 住環境(入院、在宅、各施設)の種類や違い、 メリット・デメリット	
4	住環境について (在宅、施設での生活場面) 2	2	・ 住環境(入院、在宅、各施設)の種類や違い、 メリット・デメリット	
5	介護保険(住環境、福祉用具) 住環境整備の考え方と進め方 1	1	・ 介護保険下における住宅改修の進め方を理解 ・ 住環境整備におけるOTの役割と姿勢	
6	住環境整備の考え方と進め方 2	2	・ 移動補助具使用時の有効幅 ・ ADL場面での基本的な住宅改修方法	
7	住環境整備の考え方と進め方 (実技)		移動補助具(歩行器、車椅子、杖)使用時の有効幅の確認	
8	フィールド調査 1		グループ課題: 住宅展示場へ行き、住宅改修のポイントを学ぶ	
9	フィールド調査 2		計画書作成	
10	フィールド調査 3		実施 1	
11	フィールド調査 4		実施 2	
12	フィールド調査 5		振り返りとまとめ ポイントの説明 見取り図の作成	
13	フィールド調査 6		調査発表準備	
14	フィールド調査 7		発表	
15	総括・テストに向けて		住環境整備論のまとめと復習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書) OT・PTのための住環境整備論(三輪書店)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域作業療法学		作業療学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下 良二
授業の概要				
地域社会での保健・医療・福祉について理解し、作業療法を必要としている人によりよい作業療法を提供できるようにする				
授業終了時の到達目標				
地域作業療法について説明でき、他職種との連携、課題について説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を活かし、地域での作業療法について指導する		
時間外に必要な学修				
次回の範囲についてテキストを確認する				
回	テーマ	内容		
1	地域作業療法学総論 地域医療について	地域医療について考える 地域リハビリテーションの定義		
2	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの概要を理解する		
3	地域ケア会議について ①	地域ケア会議について理解する		
4	地域ケア会議について ②	模擬的に地域ケア会議を行い、地域で働く多職種について理解する		
5	介護予防について	介護予防に関わる取り組みなどを体験する		
6	地域との関わり ①	地域の自治会などに作業を通してかかわっていく		
7	地域との関わり ②	地域の自治会などに作業を通してかかわっていく		
8	地域の高齢者との関わり	地域の高齢者とのかかわりの中で地域作業療法を理解する		
9	地域の学童との関わり	地域の学童とのかかわりの中で地域作業療法を理解する		
10	フィールド調査 ①	フィールド調査の目的と計画を立てる		
11	フィールド調査 ②	フィールド調査の実施		
12	フィールド調査 ③	フィールド調査のまとめ		
13	地域で生活している障害を持つ人との関わり ①	地域で生活している方の講演を聴き、地域で暮らすことについて学ぶ		
14	地域で生活している障害を持つ人との関わり ②	地域で生活している方の講演を聴き、地域で暮らすことについて学ぶ		
15	地域作業療法のまとめ	地域作業療法について考える		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
地域作業療法学(メジカルビュー社) プリント配布		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
福祉用具学		作業療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	廣永 大祐
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICF(国際生活機能分類)を理解し、環境因子が生活面にどのように影響するのか理解する。 ・ 障害者の身体機能、生活環境、経済力、社会資源などを幅広い適合性を正確に評価できる。 ・ 移動及び移乗関連用具・排泄関連用具・入浴関連用具・コミュニケーション関連用具・更衣や整容関連用具・食事関連用具・自助具について理解する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者、介助者、家族に対象と福祉用具の情報を的確に伝えることができる。 ・ 適合性を評価して上で、福祉用具を選定し、導入することができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験。臨床での福祉用具の作成、使用経験を活かし、学生にイメージしやすい授業展開を行う。		
時間外に必要な学修				
テキストを使用したの予習を行う。				
回	テーマ	内容		
1	福祉用具の定義と介護保険の福祉用具貸与・購入(制度)について	オリエンテーション 福祉用具の定義 介護保険制度の福祉用具		
2	移動関連用具について	杖の種類、選定、調整、使用方法		
3	車椅子について	車椅子の種類、名称、特徴、使用方法、メンテナンス		
4	移乗関連機器	トランスファーボード、リフト、スライディングシート		
5	シーティング	シーティングとは シーティングの条件・目的 車いす適合 シートクッションの調整		
6	排泄関連用具について	排泄関連の説明、使用方法、選定の仕方		
7	入浴関連用具について	入浴関連用具: バスボード、シャワーチェア、シャワーキャリー、浴槽用手すり など		
8	コミュニケーション機器と環境制御装置について	コミュニケーション機器: トーキングエイド、文字盤、メッセージボード など		
9	高齢者・障害者の衣服	高齢者・障害者の衣服について		
10	褥瘡予防関連用具について	褥瘡とは マットレスの特徴 クッション		
11	ポジショニング	ポジショニングとは 姿勢の理解と特徴 ポジショニング実践		
12	自助具について	説明と自助具の紹介 自助具製作に向けての説明		
13	自助具の製作作業①	各自が考案した自助具の製作 レジュメの作成 発表準備		
14	製作した自助具の発表①	制作した自助具についてレジュメをもとに各自発表		
15	製作した自助具の発表② まとめ	発表の続き まとめ 試験について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
福祉用具プランナーテキスト		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
就労支援技術論		作業療法学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	馬場 広志
授業の概要				
職業リハビリテーションの概念を学び、就労支援に関連する制度や支援技術、作業療法の流れを学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
障害者の就労支援に関連する制度や作業療法評価、支援について説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの作業療法士としての臨床経験を生かして指導する。		
時間外に必要な学修				
・障害者の職業に関するニュースや情報に目を向けておきましょう。				
回	テーマ	内容		
1	職業関連活動概論	職業リハビリテーションの概念 就労支援に関する理論、障害者にとっての職業とは		
2	障害者の就労制度 1	障害者雇用促進法、障害者総合支援法 障害者雇用率制度		
3	障害者の就労制度 2	就労移行支援、就労継続支援		
4	障害者の就労支援 1	就労支援施設とその業務(ハローワークなど)		
5	障害者の就労支援 2	ジョブコーチ、リワーク、IPS		
6	職業関連活動における作業療法 1	就労支援における作業療法の役割 関連職種・機関との連携		
7	職業関連活動における作業療法 2	作業療法評価 職業興味評価		
8	職業関連活動における作業療法 3	職業能力適正評価、性格検査など		
9	障害別就労支援の実際 1	知的障害に対する就労支援		
10	障害別就労支援の実際 2	統合失調症、うつ病に対する就労支援		
11	障害別就労支援の実際 3	身体障害に対する就労支援		
12	障害別就労支援の実際 4	高次機能障害に対する就労支援		
13	障害別就労支援の実際 5	発達障害に対する就労支援		
14	就労支援施設の取り組み 1	就労支援施設の現場の取り組みを学ぶ		
15	就労支援施設の取り組み 2	就労支援施設の現場の取り組みを学び、考えをまとめる		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・プリント配布		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
職業関連活動学		作業療法学科/3年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
職業リハビリテーションの概念を学び、人にとっての職業の意味を知る。職業に関連する制度や作業療法の流れと支援技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
障害者の就労支援に関連する制度や作業療法評価、支援について説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの作業療法士としての臨床経験を生かして指導する。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> 配布資料をもとに、振り返りながら学習する。 障害者の職業に関するニュースや情報に目を向けておきましょう。 				
回	テーマ	内容		
1	職業関連活動概論	職業リハビリテーションの概念 就労支援に関する理論 障害者にとっての職業とは		
2	障害者の就労制度	障害者雇用促進法、障害者総合支援法 障害者雇用率制度、就労移行支援、就労継続支援		
3	障害者の就労支援	就労支援施設とその業務(ハローワークなど) ジョブコーチ、リワーク、IPS		
4	職業関連活動における作業療法1	就労支援における作業療法の役割 関連職種・機関との連携		
5	職業関連活動における作業療法2	作業療法評価 職業興味評価、職業能力適正評価など		
6	障害別就労支援の実際1	高次機能障害に対する就労支援 グループワーク		
7	障害別就労支援の実際2	発達障害、知的障害に対する就労支援		
8	障害別就労支援の実際3	統合失調症、うつ病、身体障害に対する就労支援		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> プリント配布 作業療法ジャーナル 厚生労働省ホームページ資料 職業関連活動(協同医書) 		期末試験	100%	

臨床実習

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
見学実習 I		作業療法学科/1年	2021/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	5回	1単位(45時間)	必須	馬場 広志
実習の概要				
学校が連携している臨床経験3年以上の作業療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
実習の手引きを熟読し、実習の目的、各自の目標を明確にして臨み、毎日の課題と予習を行うこと。				
実習内容				
第1学年前期に行われる臨床場面での実習であり、将来学生が作業療法士になる上でその資質・適性の有無を判断する機会を持つために、作業療法業務の部分的体験および見学を行うものである。体験見学実習 I では前半、後半の2施設での実習を行う。				
1. 実習学生としての役割と責任				
1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 施設の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の業務内容を見学する。 施設の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで対象者への問診や検査測定など作業療法士の業務体験を行う。				
2) 実習施設における態度、行動については、「実習にあたっての心得」を参照し、各施設の規則を遵守する。				
3) 「デイリーノート」を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。				
4) 各施設での実習終了後、学校で行われるセミナーに出席し、各自の実習施設について必要な報告発表を行う。				
2. デイリーノートの内容				
1) 実習日程				
2) 実習施設とその業務に関する資料				
3) 作業療法部門とその業務に関する資料 設備・備品、管理、患者数、疾病の種類、プログラム、治療に利用した記録や報告、方法などの見本又は説明、学生が担当した対象者についての資料				
4) 他のリハビリテーション部門に関する資料				
5) 参加した実技指導、講義、症例会議、回診、抄録会等教育に関する資料と内容、経験				
6) その他 実習期間中に得られた参考資料				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・デイリーノート		実習成績表の判定：実習・実習前オリエンテーション・実習報告会の出席状況と学習成果状況により総合判定	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
見学実習Ⅱ		作業療法学科/1年	2021/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	5回	1単位(45時間)	必須	馬場 広志
実習の概要				
学校が連携している臨床経験3年以上の作業療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
実習の手引きを熟読し、実習の目的、各自の目標を明確にして臨み、毎日の課題と予習を行うこと。				
実習内容				
第1学年後期に行われる臨床場面での実習であり、将来学生が作業療法士になる上でその資質・適性の有無を判断する機会を持つために、作業療法業務の部分的体験および見学を行うものである。体験見学実習Ⅱでは1施設での実習を行う。				
1. 実習学生としての役割と責任				
1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 施設の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の業務内容を見学する。 施設の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで対象者への問診や検査測定など作業療法士の業務体験を行う。				
2) 実習施設における態度、行動については、「実習にあたっての心得」を参照し、各施設の規則を遵守する。				
3) 「デイリーノート」を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。				
4) 各施設での実習終了後、学校で行われるセミナーに出席し、各自の実習施設について必要な報告発表を行う。				
2. デイリーノートの内容				
1) 実習日程				
2) 実習施設とその業務に関する資料				
3) 作業療法部門とその業務に関する資料 設備・備品、管理、患者数、疾病の種類、プログラム、治療に利用した記録や報告、方法などの見本又は説明、学生が担当した対象者についての資料				
4) 他のリハビリテーション部門に関する資料				
5) 参加した実技指導、講義、症例会議、回診、抄録会等教育に関する資料と内容、経験				
6) その他 実習期間中に得られた参考資料				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・デイリーノート		実習成績表の判定：実習・実習前オリエンテーション・実習報告会の出席状況と学習成果状況により総合判定	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価実習		作業療法学科/2年	2021/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	15回	3単位(135時間)	必須	廣永 大祐
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年以上の作業療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の全体像を把握できる。 3. 記録・報告をすることができる。 4. 管理・運営について理解することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験及び臨床実習指導者講習会を受講し認定を受けた者臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
翌日の実習計画を踏まえ、教科書や資料などを参考に事前準備を行う				
実習内容				
第2学年に行われる臨床場面での実習で、対象者の心身諸機能・日常生活活動等の生活面・対人交流等の社会面を把握する評価の実施及び作業療法士の役割と機能を部分的に実践する実習である。カリキュラムの進行状況から、評価の目的の把握や各検査項目を確実にこなすなど、基礎的なことを確実に行うことに重点がおかれる。				
実習学生としての役割と責任				
1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 作業療法部門の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の診療補助体験や、対象者への問診、検査測定等の評価を行う。				
2) 実習施設における態度、行動については、『実習にあたっての心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。				
3) 『デイリーノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。				
4) 『ケースノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。				
5) 実習終了時『臨床実習成績報告書』の中の学生意見を記入し、臨床実習指導者と話し合う。				
6) 各施設での実習終了後、学校でケースレポートを作成し、各自の実習経験と併せてセミナーにて報告発表を行なう。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・実習の手引き ・学生の心得 ・配布資料		総括判定	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習 I		作業療法学科/3年	2021/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	20回	4単位(180時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年目以上の作業療法士(臨床実習指導者)が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の全体像を把握できる。 3. 対象者の作業療法計画を立案できる。 4. 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。 5. 記録・報告をすることができる。 6. 管理・運営について理解することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
自己学習とデイリーノートのまとめ Clinical Recordの記載				
実習内容				
臨床実習は、第3学年に行われる臨床場面での実習であり、当校で学習した知識と技術・技能および態度を臨床における作業療法体験により統合する課程である。 学生は臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高めるものである。				
実習学生としての役割と責任				
1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 作業療法部門の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の診療補助体験や、対象者への問診、検査測定等の評価を行う。 また、評価結果統合と解釈(考察)を行い、目標の設定と治療プログラムを立案し作業療法の成果を確認する。必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。				
2) 実習施設における態度、行動については、『実習にあたっての心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。				
3) 『デイリーノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。				
4) 『Clinical Record』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。				
5) 実習終了時『臨床実習成績報告書』の中の学生意見を記入し、臨床実習指導者と話し合う。				
6) 各施設での実習終了後、学校でケースレポートを作成し、各自の実習経験と併せてセミナーにて報告発表を行なう。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・配布資料 ・デイリーノート ・Clinical Record		実習・実技評価	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		作業療法学科/3年	2021/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	30回	6単位(270時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年目以上の作業療法士(臨床実習指導者)が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の全体像を把握できる。 3. 対象者の作業療法計画を立案できる。 4. 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。 5. 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 6. 記録・報告をすることができる。 7. 管理・運営について理解することができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
自己学習とデイリーノートのまとめ Clinical Recordの記載				
実習内容				
臨床実習は、第3学年に行われる臨床場面での実習であり、当校で学習した知識と技術・技能および態度を臨床における作業療法体験により統合する課程である。 学生は臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高めるものである。				
実習学生としての役割と責任				
<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 作業療法部門の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の診療補助体験や、対象者への問診、検査測定等の評価を行う。 また、評価結果統合と解釈(考察)を行い、目標の設定と治療プログラムを立案し作業療法の成果を確認する。必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 2) 実習施設における態度、行動については、『実習にあたっての心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。 3) 『デイリーノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。 4) 『Clinical Record』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。 5) 実習終了時『臨床実習成績報告書』の中の学生意見を記入し、臨床実習指導者と話し合う。 6) 各施設での実習終了後、学校でケースレポートを作成し、各自の実習経験と併せてセミナーにて報告発表を行なう。 				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・配布資料 ・デイリーノート ・Clinical Record		実習・実技評価	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅲ		作業療法学科/3年	2021/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	40回	8単位(360時間)	必須	大川 麻美
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年目以上の作業療法士(臨床実習指導者)が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の全体像を把握できる。 3. 対象者の作業療法計画を立案できる。 4. 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。 5. 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 6. 記録・報告をすることができる。 7. 管理・運営について理解することができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
自己学習とデイリーノートのまとめ Clinical Recordの記載				
実習内容				
臨床実習は、第3学年に行われる臨床場面での実習であり、当校で学習した知識と技術・技能および態度を臨床における作業療法体験により統合する課程である。 学生は臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高めるものである。				
実習学生としての役割と責任				
<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 作業療法部門の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の診療補助体験や、対象者への問診、検査測定等の評価を行う。 また、評価結果統合と解釈(考察)を行い、目標の設定と治療プログラムを立案し作業療法の成果を確認する。必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 2) 実習施設における態度、行動については、『実習にあたっての心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。 3) 『デイリーノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。 4) 『Clinical Record』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。 5) 実習終了時『臨床実習成績報告書』の中の学生意見を記入し、臨床実習指導者と話し合う。 6) 各施設での実習終了後、学校でケースレポートを作成し、各自の実習経験と併せてセミナーにて報告発表を行なう。 				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・配布資料 ・デイリーノート ・Clinical Record		実習・実技評価	100%	